大館市文化財調查報告書 第2集

大館市内遺跡詳細分布調査報告書

2008 • 3

秋田県大館市教育委員会

大館市内遺跡詳細分布調査報告書

2008 • 3

秋田県大館市教育委員会

現在、大館市には273箇所の遺跡が登録されております。先人の遺産である埋蔵文化財は、地域の歴史を解明するうえで重要な資料であり、貴重な文化遺産として保護し、未来へ引き継いでいかなくてはなりません。

近年、市内において道路建設や宅地開発などの開発事業が計画され、埋蔵文化財の保護が急務となっておりますが、遺跡分布調査および遺跡試掘確認調査は、それら各種の開発事業と埋蔵文化財保護との調整を図るための基礎となるものです。

本報告は平成15年度から平成19年度にわたり実施した、遺跡 詳細分布調査の結果をまとめたものであり、文化財の保存と普及 啓発活動、ならびに埋蔵文化財に対する理解や学術研究のために 活用していただければ幸いに存じます。

最後になりましたが、調査から報告書刊行まで御指導、御協力 くださいました関係者ならびに関係機関に深く感謝申し上げます とともに、今後とも埋蔵文化財の保護に一層の御指導賜わります ようお願い申し上げます。

平成20年3月

大館市教育委員会 教育長 仲 澤 鋭 蔵

例 言

1 本書は、平成15~19年度に実施した大館市管内における遺跡詳細分布調査および平成15年度に実施した県指定史跡「矢立廃寺跡」周辺の範囲・内容確認調査の報告書である。

なお、平成19年度に実施した長岡城跡の確認調査結果については、平成20年度も引き続き調査予定のため、次回にまとめて報告する。

- 2 調査は、平成 $15 \sim 19$ 年度に国・県の補助金交付を受けて、大館市教育委員会が調査主体となり実施したものである。
- 3 調査については、大館市教育委員会大館郷土博物館が担当した。
- 4 本書の執筆は、第1章は滝内が行い、第2章は調査地ごとに分担し、文末に記した。編集は滝内が行った。
- 5 本書に使用した地形図は、国土地理院発行の 1/50,000 地形図、ならびに大館市役所発行の「大館市管内図 1/50,000」、「都市計画図 1/2,500」である。

また、一部事業関係で作成した図面を使用した。

- 6 出土遺物および記録類は、大館市教育委員会大館郷土博物館で保管している。
- 7 本書に掲載した挿図には各々縮尺・スケールを付し、図中の方位は真北を表す。なお、写真図版は任意の縮尺とした。
- 8 本書で各遺構に付している略記号は以下のとおりである。

SD … 溝跡 SI … 竪穴住居跡

SK … 土坑 SKT … 落とし穴遺構

9 調査および報告書作成にあたっては、地権者の方々をはじめ、下記の機関・方々から御指導、御協力をいただいた。記して感謝申し上げる。(敬称略・順不同)

文化庁記念物課、秋田県教育庁生涯学習課文化財保護室、秋田県埋蔵文化財センター秋田県北秋田地域振興局農林部、大館市産業部農林課、大館市建設部土木課宇田川浩一、羽柴直人、八重樫忠郎

目 次

序	
例	言
目	次

第1章	事業の概要	1
第2章	調査の記録	
1	日本海沿岸東北自動車道商人留地区工事用道路建設予定地	7
2	芋ヶ岱遺跡(日本海沿岸東北自動車道雪沢地区工事用道路待避所設置予定地)…	10
3	日本海沿岸東北自動車道雪沢地区工事用道路待避所設置予定地	13
4	矢立廃寺跡周辺範囲・内容確認調査	16
5	大館釈迦内局携帯電話無線基地局建設予定地	19
6	大館本宮局携帯電話無線基地局建設予定地	22
7	ふるさと林道「花矢線」緊急整備予定地(男神遺跡)	24
8	萩ノ台Ⅱ遺跡(大館池内局携帯電話無線基地局建設予定地)	34
9	大館葛原局携帯電話無線基地局建設予定地	38
10	大館野遺跡(大館白沢局携帯電話無線基地局建設予定地)	41
11	ふるさと林道「花矢線」緊急整備予定地	44
12	土飛山館跡(大館市豊町地内宅地造成予定地)	46
13	中仕田 I 遺跡(田代本郷局携帯電話無線基地局建設予定地)	49
14	十二所地区公民館建設予定地(十二所代官所跡)	51
15	大館二井田局携帯電話無線基地局建設予定地	61
16	比内町八木橋局携帯電話無線基地局建設予定地	63
17	萩峠遺跡(大館十二所2局携帯電話無線基地局建設予定地)	65
18	比内町達子局携帯電話無線基地局建設予定地	67
19	大館大茂内局携帯電話無線基地局建設予定地	69
20	大館城跡(大館市上町地内住宅建設予定地)	71
21	大館岩瀬局携帯電話無線基地局建設予定地	74
22	大館中山局携帯電話無線基地局建設予定地	77
23	茂屋地区農地防災施設整備予定地	79
24	大館早口局携帯電話無線基地局建設予定地	82

第1章 事業の概要

1. 調査の目的

大館市内には、旧石器時代から近世までの遺跡が存在しており、埋蔵文化財の保護と各種開発事業への事前協議等の円滑化を推進させることを目的に、平成元年度に国の補助事業として大館市内全域の遺跡分布調査を実施している。その後、遺跡の追加や平成17年6月20日に旧大館市、旧比内町、旧田代町の合併に伴い、現在は273箇所の埋蔵文化財包蔵地が登録されている。

近年、市内の各所において、道路網の整備事業や宅地開発、下水道整備事業など市民の身近な生活の中で必要とされる各種開発が増加してきており、それに伴い、破壊・消滅の危機に瀕している遺跡も増加している。貴重な埋蔵文化財を保護し、各種開発行為との円滑な調整を図るためには、周知の遺跡の現況・範囲・数の把握や今後開発が予想される地域における未発見の遺跡の新規登録などにより、市内に所在する遺跡に関する詳細な基礎資料を整備する必要があり、国・県の補助金交付を受け、周知の埋蔵文化財包蔵地および未登録地の分布調査や開発行為に先立つ試掘・確認調査等を実施するものである。

平成15度から19年度にわたり、周知の埋蔵文化財包蔵地および遺跡存在可能性地における各種開発行為について、事前の事業照会と協議を重ね、詳細な把握が必要な第1表・第1~4図の箇所について試掘・確認調査を実施した。

2. 調査体制

調 查 名 大館市内遺跡詳細分布調査

調査期間 平成15年4月1日 ~ 平成20年3月31日

調 査 主 体 大館市教育委員会

調査事務局 大館市教育委員会

教育長 仲澤 鋭蔵

教育次長 秋山 慶紀 (~平成17年3月)

海沼 俊行 (平成17年4月~)

社会教育課長 若狭 公悦 (~平成16年3月)

宮田 清司 (平成16年4月~平成18年3月)

阿部 伊之助 (平成18年4月~平成19年3月)

渡部 清美 (平成19年4月~)

主幹兼郷土博物館長 板橋 範芳 (調査担当者)

郷土博物館

文化財保護係長 和田 信 (~平成17年6月)

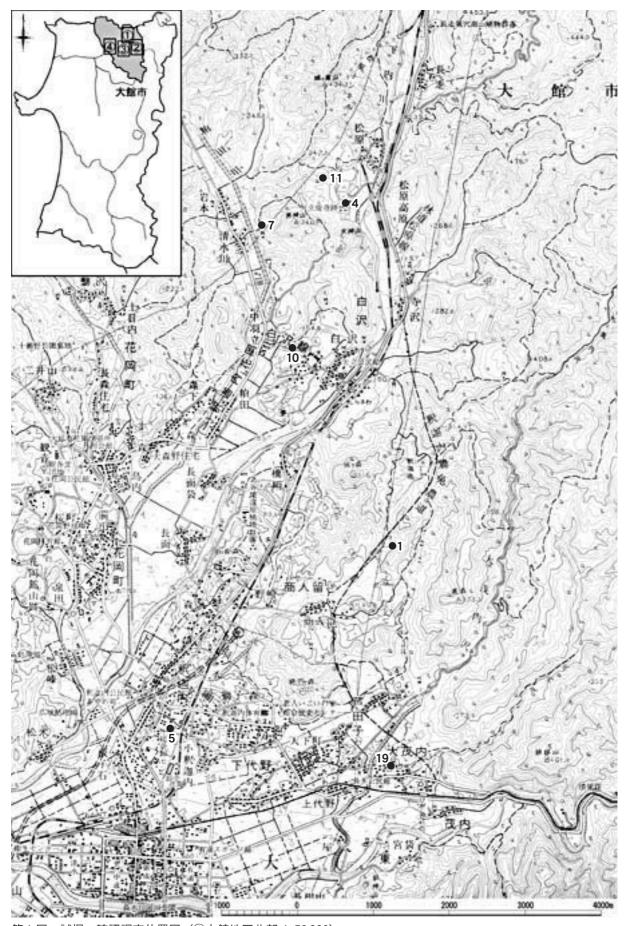
豊田 耕司 (平成17年6月~)

同 主任 滝内 亨

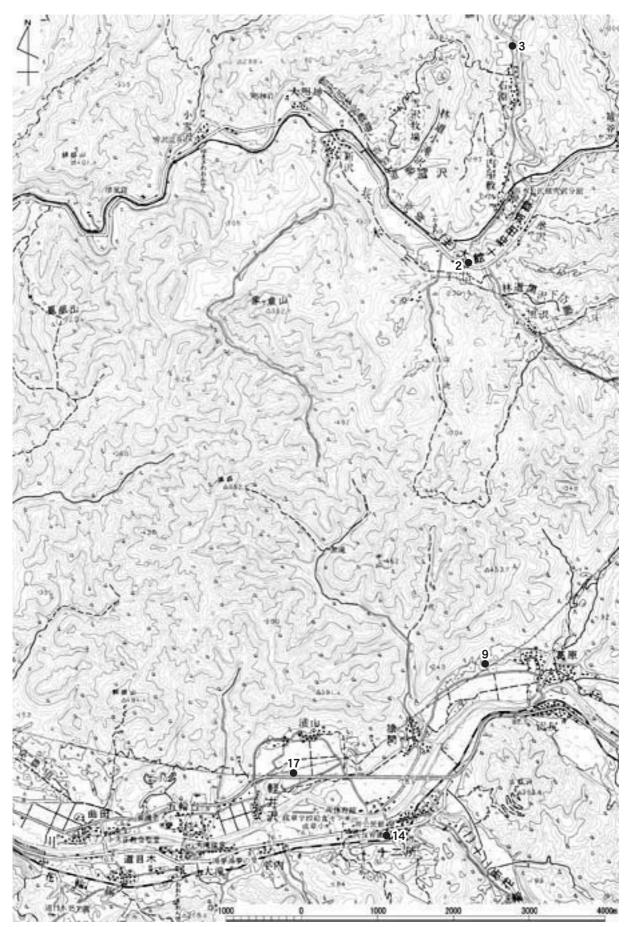
同 主任主事 嶋影 壮憲 (平成18年4月~)

第1表 試掘·確認調査実施一覧表

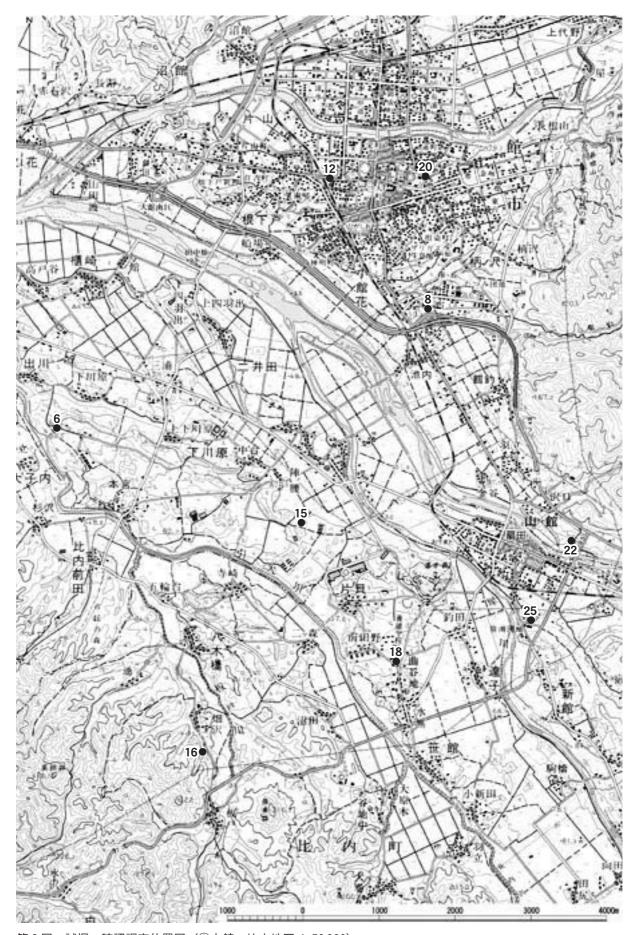
	事 業 名	遺跡名	調査期間	事 業 主 体	事業概要
1	日本海沿岸東北自動車道 商人留地区工事用道路建設工事		平成15年7月2日~ 平成15年7月15日	大館市	道路建設
2	日本海沿岸東北自動車道 雪沢地区工事用道路待避所設置工事	芋ヶ岱遺跡	平成15年12月12日~ 平成15年12月13日	大館市	既設道路 待避所整備
3	日本海沿岸東北自動車道 雪沢地区工事用道路待避所設置工事		平成15年12月16日~ 平成15年12月17日	大館市	既設道路 待避所整備
4	矢立廃寺跡周辺範囲・内容確認調査	矢立廃寺跡	平成16年3月2日~ 平成16年7月27日	_	_
5	大館釈迦内局携帯電話無線基地局 建設工事	_	平成16年10月6日~ 平成16年10月15日	ボーダフォン株式会社	無線基地局 建設
6	大館本宮局携帯電話無線基地局 建設工事		平成16年11月2日~ 平成16年11月10日	ボーダフォン株式会社	無線基地局 建設
7	ふるさと林道「花矢線」緊急整備事業	男神遺跡	平成16年11月26日~ 平成16年12月17日	北秋田地域振興局	道路建設
8	大館池内局携帯電話無線基地局 建設工事	萩ノ台Ⅱ遺跡	平成17年3月3日~ 平成17年3月15日	株式会社エヌ・ティ・ ティ・ドコモ東北	無線基地局 建設
9	大館葛原局携帯電話無線基地局 建設工事	_	平成17年 3 月16日~ 平成17年 3 月20日	株式会社エヌ・ティ・ ティ・ドコモ東北	無線基地局 建設
10	大館白沢局携帯電話無線基地局 建設工事	大館野遺跡	平成17年 3 月23日~ 平成17年 3 月31日	株式会社エヌ・ティ・ ティ・ドコモ東北	無線基地局 建設
11	ふるさと林道「花矢線」緊急整備事業	_	平成17年7月20日~ 平成17年7月23日	北秋田地域振興局	道路建設
12	大館市豊町地内宅地造成工事	土飛山館跡	平成17年10月12日~ 平成17年10月21日	個人	宅地造成
13	田代本郷局携帯電話無線基地局 建設工事	中仕田I遺跡	平成17年11月2日~ 平成17年11月5日	KDD I 株式会社	無線基地局 建設
14	十二所地区公民館建設	十二所代官所跡	平成18年 3 月14日~ 平成18年 3 月30日	大館市	公民館建設
15	大館二井田局携帯電話無線基地局 建設工事	_	平成18年 4 月25日	ボーダフォン株式会社	無線基地局 建設
16	比内町八木橋局携帯電話無線基地局 建設工事	_	平成18年8月3日~ 平成18年8月11日	株式会社エヌ・ティ・ ティ・ドコモ東北	無線基地局 建設
17	大館十二所2局携帯電話無線基地局 建設工事	萩峠遺跡	平成18年9月5日~ 平成18年9月14日	株式会社エヌ・ティ・ ティ・ドコモ東北	無線基地局 建設
18	比内町達子局携帯電話無線基地局 建設工事	_	平成18年10月11日~ 平成18年10月13日	株式会社エヌ・ティ・ ティ・ドコモ東北	無線基地局 建設
19	大館大茂内局携帯電話無線基地局 建設工事		平成18年11月1日~ 平成18年11月9日	株式会社エヌ・ティ・ ティ・ドコモ東北	無線基地局 建設
20	大館市上町地内住宅建設	大館城跡	平成18年12月1日~ 平成18年12月16日	個人	住宅建設
21	大館岩瀬局携帯電話無線基地局 建設工事		平成19年10月16日~ 平成19年10月18日	株式会社エヌ・ティ・ ティ・ドコモ東北	無線基地局 建設
22	大館中山局携帯電話無線基地局 建設工事	_	平成19年10月23日~ 平成19年10月25日	KDD I 株式会社	無線基地局 建設
23	中山間地域総合整備事業 茂屋地区農地防災施設整備事業	_	平成19年11月7日~ 平成19年11月9日	大館市	農地防災施 設整備
24	大館早口局携帯電話無線基地局 建設工事	_	平成20年 1 月17日	株式会社エヌ・ティ・ ティ・ドコモ東北	無線基地局 建設
25	大館市比内町扇田字長岡地内 住宅(ケアハウス)建設	長岡城跡	平成19年11月20日~ 平成19年12月12日	個人	住宅建設



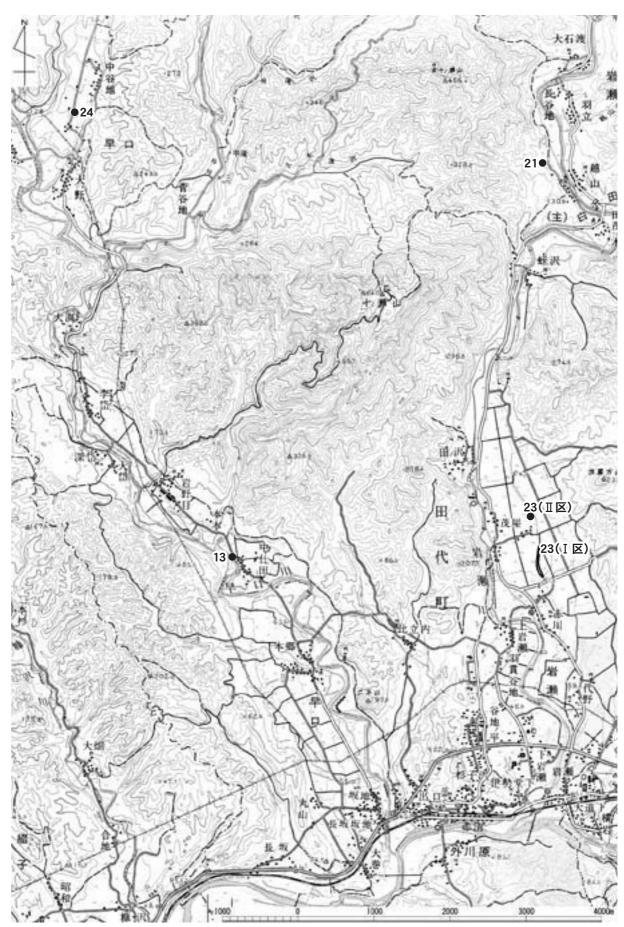
第1図 試掘・確認調査位置図 (①大館地区北部 1:50,000)



第2図 試掘・確認調査位置図 (②大館地区東部 1:50,000)



第3図 試掘・確認調査位置図 (③大館・比内地区 1:50,000)



第4図 試掘・確認調査位置図 (④田代地区 1:50,000)

第2章 調査の記録

- 1 日本海沿岸東北自動車道商人留地区工事用道路建設予定地(遺跡存在可能性地)
- 1. 調 査 対 象 所 在 地 大館市商人留字田ノ沢 99・100-1
- 2. 確認調查期間 平成15年7月2日(水)~7月15日(火)
- 3. 確認調查対象面積 370.5 m²
- 4. 調査地の立地と現況
 - (1) 立 地

JR奥羽本線大館駅から北東へ約 $5~\rm km$ の大館市北部に位置する。釈迦池遺跡の南約 $500~\rm m$ の地点である。調査地の北部から南西部に向かって沢が入りこみ、北東部からの小沢と交わる平坦面に立地する。南西部は水田およびため池として利用されており、調査地との比高差は $5~\rm < 7~m$ である。

- (2) 現 況 原野および雑木林
- 5. 確認調査の方法

工事区画内に幅2mのトレンチを南東-北西方向に3箇所(№.1トレンチ18m:№.2トレンチ13m:№.3トレンチ8m)設定し、人力により表土以下を削土した後、地山面を精査して遺構・遺物の有無を確認した。確認調査における試掘面積は78㎡で、対象面積の21%に相当する。

- 6. 確認調査結果
 - (1)層序

No.1トレンチ南東端部

I 層 暗褐色土 (表土)

Ⅱ層 角礫混入山土の流入土

Ⅲ層 黒色土

湧水による浸水が極めて早く進行 した為、調査の継続が困難な状況に なり中断した。 No.1トレンチ北西端部-中央部

I 層 礫混入黄褐色土(人為整地土)

Ⅱ層 暗褐色土 (表土)

Ⅲ層 角礫混入山土の流入土

Ⅳ層 軽石混入褐色土(地山面)

地山面が北西端部から南東部にかけて 緩やかに傾斜しており、湧水地点が小沢 であったと思われる。

- No. 2 トレンチ南東端部および北西端部・No. 3 トレンチ南東端部および北西端部
 - I 層 暗褐色土(表土)
 - Ⅱ層 角礫混入山土の流入土
 - Ⅲ層 軽石混入褐色土(地山面)
- No. 2 トレンチ中央部・No. 3 トレンチ中央部
 - I 層 暗褐色土 (表土)
 - Ⅱ層 砂礫混入黒褐色土
 - Ⅲ層 礫混入赤褐色土
 - Ⅳ層 軽石混入粘質暗褐色土(地山面)

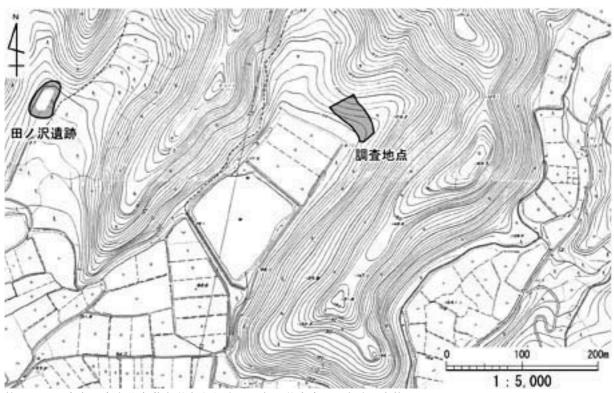
No. $2 \cdot 3$ 両トレンチとも両端から中央部にかけて地山面が緩やかに傾斜しており、流下堆積と思われる砂礫が混入していることから、No. $2 \cdot 3$ トレンチ中央部からNo. 1 トレンチ南東部へ続く小沢だったと考えられる。

(2) 検出遺構と出土遺物

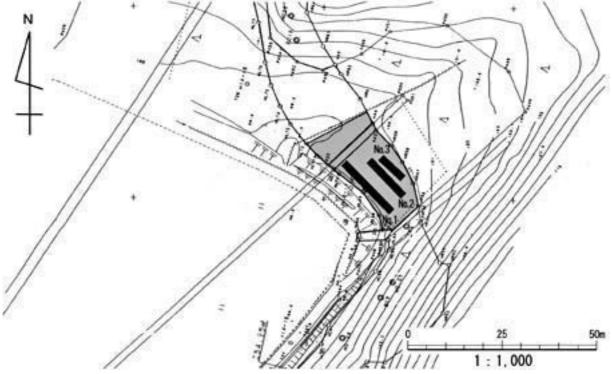
遺構は、No.3トレンチ北西部にピットが検出されたが掘り下げ調査の結果、風倒木痕と思われる。遺物は一切出土しなかった。

7. 所 見

遺構・遺物は一切確認されず、地山面の状態からみると工事区域内中央平坦面に小沢が入り こんでいたと思われ、工事区域内に遺跡の存在はないと考えられる。よって、発掘調査の必要 はないものと判断した。 (滝内)



第5図 日本海沿岸東北自動車道商人留地区工事用道路建設予定地調査位置図



第6図 日本海沿岸東北自動車道商人留地区工事用道路建設予定地トレンチ配置図



調査区全景(南から)



調査区近景 (南東から)



No.1 トレンチ (東から)



右:No.2トレンチ、左:No.3トレンチ(北西から)



風倒木痕 (南から)

2 芋ヶ岱遺跡(日本海沿岸東北自動車道雪沢地区工事用道路待避所設置予定地)

- 1. 調 査 対 象 所 在 地 大館市雪沢字蕷ヶ岱 204-1・205-1
- 2. 確認調查期間 平成15年12月12日(金)~12月13日(土)
- 3. 確認調査対象面積 149.09 ㎡
- 4. 調査地の立地と現況
 - (1) 立 地

大館市街から東へ約10km長木川南岸(左岸)、長木川と黒沢川の形成した沖積台地上、大館市立雪沢小学校の南東側に位置する。

- (2) 現 況 水 田
- 5. 確認調査の方法

工事区画内に幅2m長さ12mのトレンチを南-北に設定し、人力により表土以下を削土した後、地山面を精査して遺構・遺物の有無を確認した。

確認調査における試掘面積は24㎡で、対象面積の16%に相当する。

- 6. 確認調查結果
 - (1)層序

トレンチ北部-中央部

I 層 粘質黒色土 (耕作土)

Ⅱ層 黒色土

Ⅲ層 軽石混入明褐色土(十和田 a 降下火山灰)

IV層 黒褐色土

V層 軽石混入明褐色土(地山面)

トレンチ南部

I 層 粘質黒色土 (耕作土)

Ⅱ層 黒褐色土

Ⅲ層 礫混入黄褐色土 (人為整地土)

Ⅳ層 軽石混入明褐色土(地山面)

(2) 検出遺構と出土遺物

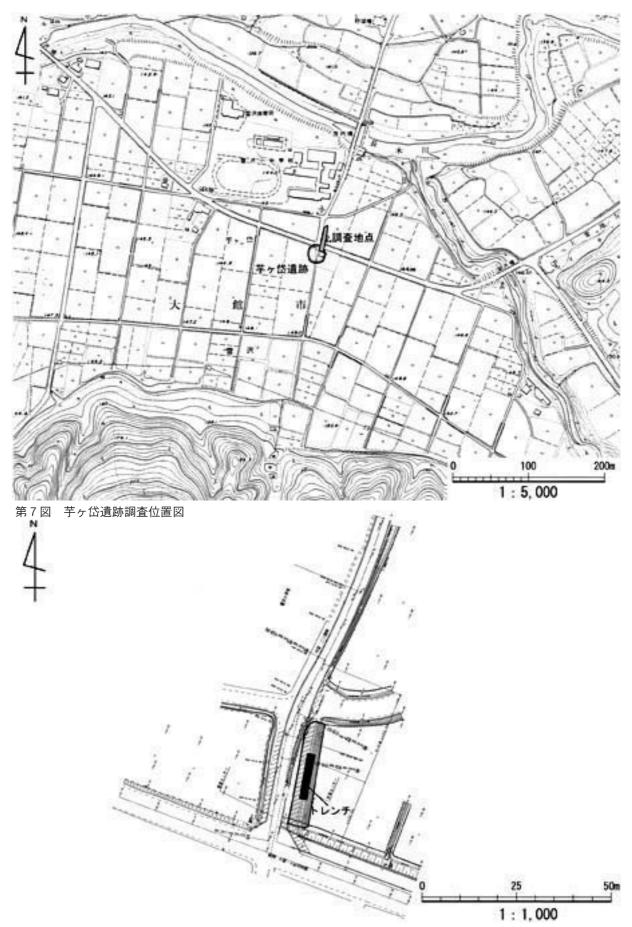
トレンチ北部に黒色土の落ち込みを確認したが、調査の結果、風倒木痕と思われる。トレンチ北-中央部にかけての十和田 a 降下火山灰層下、黒褐色土層より縄文後期土器片 5 点、 頁岩の石核 1 点が出土。

7. 所 見

遺構は確認されなかった。遺物は、トレンチ北側の残存している十和田 a 降下火山灰層下から数点得られたのみである。

トレンチ南側は、人為整地によって遺構・遺物の出土は一切なく、隣接している県道大館十 和田湖線にて過去の改修工事の際に見つかったという遺物包含層も確認されなかった。

よって、工事区域内に遺構の存在はないと思われ、遺物包含層もないことから、周知の遺跡「芋ヶ岱遺跡」の範囲内ではあるが、発掘調査の必要はないものと判断した。 (滝内)



第8図 芋ヶ岱遺跡調査トレンチ配置図



調査区近景(南東から)



十和田a降下火山灰層(東から)



トレンチ(北から)



出土遺物

3 日本海沿岸東北自動車道雪沢地区工事用道路待避所設置予定地(遺跡存在可能性地)

- 1. 調查対象所在地 大館市雪沢字石淵上岱103-1
- 2. 確 認 調 査 期 間 平成15年12月16日(火)~12月17日(水)
- 3. 確認調查対象面積 127.73 m²
- 4. 調査地の立地と現況
 - (1) 立 地

大館市立雪沢小学校から北へ約3 km 石淵集落の北側、長木川南岸(右岸) および西岸(右 岸) に接する段丘台地上に位置する。調査地の南約100mには石淵上岱遺跡が存在する。

- (2)現 況 水田および道路法面
- 5. 確認調査の方法

工事区画内に南-北に幅2m長さ6mのNo.1トレンチ、幅1.5m長さ5mのNo.2トレンチを設 定し、人力により表土以下を削土した後、地山面を精査して遺構・遺物の有無を確認した。 確認調査における試掘面積は19.5㎡で、対象面積の15%に相当する。

- 6. 確認調査結果
 - (1)層序

No.1 トレンチ北部

I 層 粘質黒色土 (耕作土) 東側 暗褐色土(表土)西側

Ⅱ層 黄色土ブロック混入黒色土

Ⅲ層 軽石混入明褐色土(地山面)

No.1トレンチ中央部-南部

I 層 粘質黒色土 (耕作土) 東側 暗褐色土 (表土) 西側

Ⅱ層 礫混入黄褐色土(人為整地土)

Ⅲ層 礫·軽石混入明褐色土(地山面)

No.2トレンチ北部-中央部

I 層 粘質黒色土 (耕作土) 東側 暗褐色土 (表土) 西側

Ⅱ層 黄色土ブロック混入黒色土

Ⅲ層 礫混入黄褐色土(人為整地土)

No.2 トレンチ南部

I 層 粘質黒色土 (耕作土)

Ⅱ層 礫混入暗褐色土

Ⅲ層 黄色土ブロック混入黒色土

IV層 青灰色粘土混入黒色土

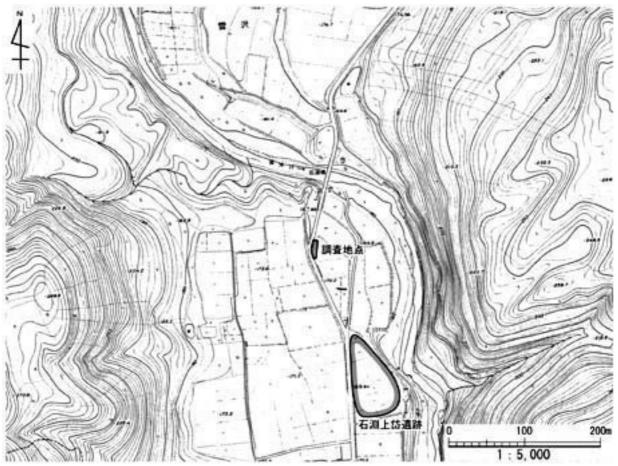
IV層 礫·軽石混入明褐色土(地山面) V層 軽石混入明褐色土(地山面)

(2) 検出遺構と出土遺物

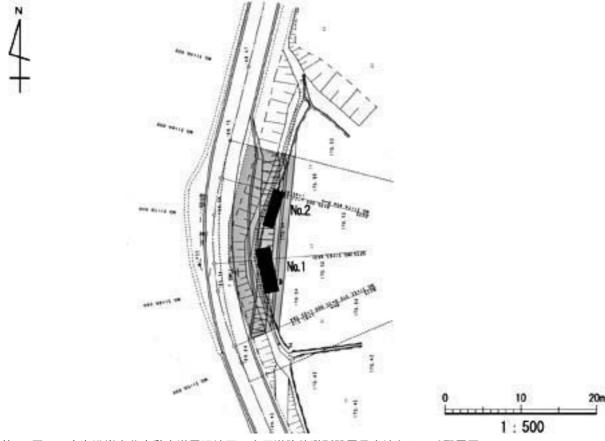
遺構・遺物とも一切確認されなかった。

7. 所

調査の結果、旧地形は北へ向かって段丘状に落ちこんでいたと思われ、現地形は人為的に整 地工事された姿であると考えられる。よって、遺構の検出、遺物の出土もなかったことから工 事区域内に遺跡の存在はないと考えられ、発掘調査の必要はないものと判断した。



第9図 日本海沿岸東北自動車道雪沢地区工事用道路待避所設置予定地調査位置図



第 10 図 日本海沿岸東北自動車道雪沢地区工事用道路待避所設置予定地トレンチ配置図



調査区近景 (北西から)



No.1 トレンチ (南から)

No.2トレンチ (北から)

4 矢立廃寺跡周辺範囲・内容確認調査

- 1. 調査対象所在地 大館市白沢字松原小字ハゲノ下地内(市有地)
- 2. 確認調査期間 平成16年3月2日(火)~3月27日(土)
- 3. 確認調查対象面積 138 ㎡
- 4. 遺跡の立地と現況
 - (1) 立 地

遺跡はJR 奥羽本線白沢駅から北へ約2.5km、男神山(340.7 m)の北東、女神山(282 m)の北、松原台地の南端の低位段丘面に立地する。

(2) 現 況 原 野

5. 確認調査の目的

秋田県指定史跡「矢立廃寺跡」付近に「ふるさと林道花矢線」の建設工事計画があり、そのため遺跡周辺の範囲確認調査が必要であることと、寺跡は立地する小台地の南側を造成し建立されていることから、造成土をどこからもってきたかという解決すべき問題があり、その候補の一地域がトレンチを設置した台地上の、南北 40 m、東西 30 mの矩形平場である。よって範囲・内容確認調査地をここに設定した。

6. 確認調査の方法

矢立廃寺跡の北側、比高約20mの高い台地上に、長さ46m、幅3mのトレンチを南北方向に設定し、人力により表土以下を削土した後、地山面を精査して遺構・遺物の有無を確認した。

7. 確認調查結果

(1) 層 序 I 層 表土 約 20 cm

Ⅱ層 軽石粒混入黒色土 約 20 cm

 III層
 十和田a火山灰層
 約 6 cm~ 18 cm

 IV層
 暗褐色土
 約 20 cm~ 40 cm

 V層
 漸移層
 約 10 cm~ 20 cm

VI層 地山

IV層上面は凸凹が激しく、凹部に雨水流に起因する第2次堆積のⅢ層が厚くみられる。トレンチ北部・中央部・南部にそれがみられ、調査区内では台地上においてⅢ層堆積以後の大規模な土木施業はなかったことが判明した。よって、矢立廃寺建立にかかる造成土は、当該地を削って施業したものでないことがわかった。

(2) 検出遺構

トレンチ北側において柱穴状の小ピットを数基検出したが、それらは過去においてこの場がホニョ (稲の乾燥杭)立て場であったことによる、近・現代の痕跡と判断される。トレンチ南側では、略東西に走る II 層中位面から掘り込まれた溝跡を検出した。溝底には柱穴が並んでいることから、柵列状の構造物が想定される。 III 層を切り込んで掘り込まれていることから平安期以降の施業で、矢立廃寺期のものとも考えられる。

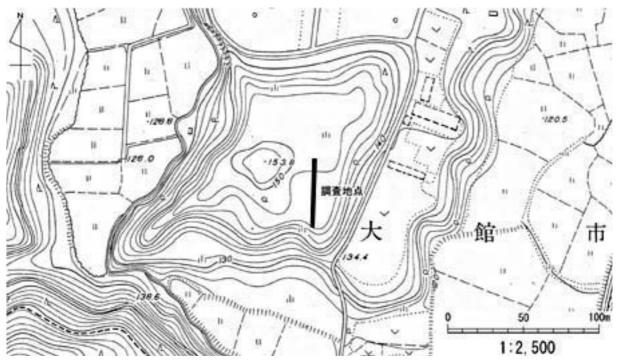
トレンチ中央部では、Ⅲ層以下を掘り残した。

(3) 出土遺物

縄文前期土器片 1 点、縄文後期土器片 94 点、縄文晩期土器片 11 点、剥片 7 点、破砕礫 24 点、近世陶磁器片 2 点が出土した。縄文後期土器片と礫は、トレンチ南部のIV層・V層中から出土したが、関係する遺構は確認されなかった。

8. 所 見

矢立廃寺建立にかかる造成用土取り場ではなかったが、平安期以降の柵列跡と思われる溝跡を検出し、かつ、下位層から縄文時代遺物の出土をみたことから、遺跡の範囲として、また、矢立廃寺跡の周辺保存地域として保全していくべきものである。 (板橋)



第11図 矢立廃寺跡調査位置図



遺跡遠景(北東から) 左:女神山、右:男神山



調査区近景(南東から)



十和田a降下火山灰層(北西から)



溝跡(東から)







出土遺物

5 大館釈迦内局携帯電話無線基地局建設予定地(遺跡存在可能性地)

- 1. 調 查 対 象 所 在 地 大館市釈迦内字館 58 番地 1
- 2. 確認調查期間 平成16年10月6日(水)~10月15日(金)
- 3. 確認調查対象面積 80 ㎡
- 4. 調査地の立地と現況
 - (1) 立 地

調査地は、大館市釈迦内地区東方、獅子ヶ森(標高 224.7 m)から西に派生した東西約 5 km、南北約 600m、標高 70~80 mの広大な獅子ヶ森台地の南西縁に位置する。この台地最西端、釈迦内神明社鎮座地を中心郭として、「釈迦内館跡」があり、遺跡東側とを画するための幅広の空堀が配されている。調査地はその空堀から東に 200 mほど離れた地点である。

(2) 現 況 原 野

5. 確認調査の方法

東西8m、南北10mの予定地内に、測量杭・通路等に支障のないように、東西7m、南北8.5mのトレンチを設定し、人力により表土以下を削土した後、地山面を精査して遺構・遺物の有無を確認した。確認調査における試掘面積は59.5㎡で、対象面積の74.4%に相当する。

- 6. 確 認 調 査 結 果
 - (1) 層 序 I 層 粘質黒色土 (表土) 約 10 cm

Ⅲ層 黒褐色土納 35 cm~40 cmⅢ層 漸移層約 5 cm~8 cm

IV層 ローム層(地山面)

(2) 検出遺構と出土遺物

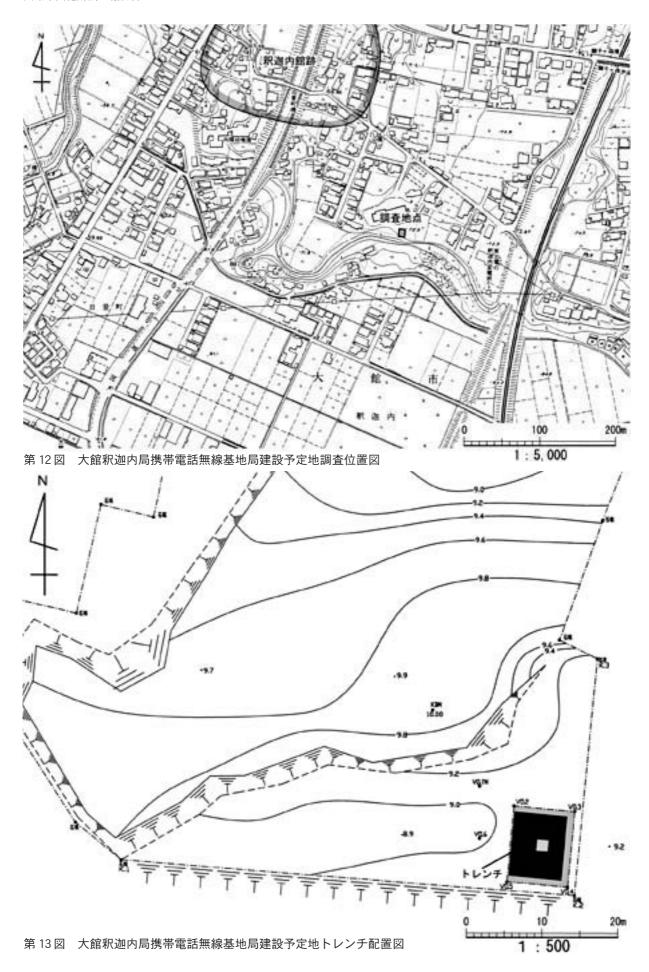
調査区中央部に風倒木痕、南側に台地縁と並行して崖崩れに伴うと考えられる地割れ跡を二条、ほかに木根痕を多数検出したが、遺構・遺物はまったく確認できなかった。

7. 所 見

遺構の検出、遺物の出土は一切なく、工事予定区域内に遺跡は存在しないと思われ、発掘調査の必要はないものと判断した。 (滝内)



調査区近景(北西から)





トレンチ南側 (西から)



トレンチ北側 (西から)



地割れ跡 (東から)

6 大館本宮局携帯電話無線基地局建設予定地(遺跡存在可能性地)

- 1. 調 査 対 象 所 在 地 大館市本宮字下モ野 5 番地 1
- 2. 確認調查期間 平成16年11月2日(火)~11月10日(金)
- 3. 確認調查対象面積 80 ㎡
- 4. 調査地の立地と現況
 - (1) 立 地

大館市南西部、標高 55 ~ 65 mの広大な本宮台地の北西部台地縁にあたり、下野遺跡の東約 50 mに位置する。台地南側を北西に流れる、引欠川との比高差は 15 m。

(2)現況 原野

5. 確認調査の方法

東西 8 m、南北 10 mの予定地内に測量杭・通路等に支障のないように、南北方向に 2.5 m× 7 mおよび 2.5 m× 4 m、東西方向に 3 m× 7 mのコの字状のトレンチを設定し、人力により表土以下を削土した後、地山面を精査して遺構・遺物の有無を確認した。確認調査における試掘面積は 48.5 ㎡で、対象面積の 60.6%に相当する。

6. 確認調査結果

(1) 層 序 I 層 粘質黒色土 (表土) 約 10cm

IV層 ローム層(地山面)

(2) 検出遺構と出土遺物

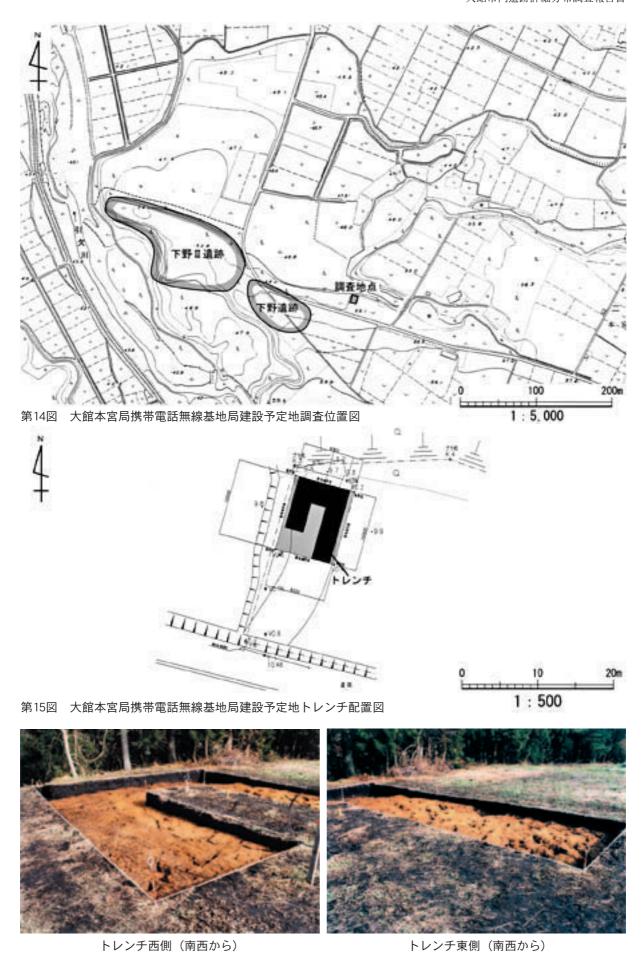
調査区北側に台地縁と並行して崖崩れに伴うと考えられる地割れ跡を、調査区全体に木根 痕を多数検出したが、遺構・遺物はまったく確認できなかった。

7. 所 見

遺構の検出、遺物の出土は一切なく、工事予定区域内に遺跡は存在しないと思われ、発掘調査の必要はないものと判断した。 (滝内)



調査近景(東から)



-23-

7 ふるさと林道「花矢線」緊急整備予定地(男神遺跡)

1. 調 查 対 象 所 在 地 大館市粕田字清水川・字男神地内

2. 確認調査期間 平成16年11月26日(金)~12月17日(金)

3. 確認調查対象面積 37,264 ㎡

4. 工事区域内遺跡面積 2,200 m²

5. 調査地の立地と現況

(1) 立 地

大館市北部、男神山(標高 340.7m)西麓の粕田川を眼下にのぞむ、標高約 $110\sim120$ m の台地上および斜面部に位置する。

(2) 現 況 山 林

6. 確認調査の方法

工事予定地内に測量杭・通路等に支障のないように、№.1~№.22のトレンチを設定し、人力により表土以下を削土した後、地山面を精査して遺構・遺物の有無を確認した。

7. 確認調查結果

(1) 検出遺構と出土遺物

第2表 男神遺跡トレンチ一覧

トレンチ 番号	遺構	遺物	面積 (m²)	備考
No. 1	_	_	9	
No. 2	_	_	9	
No. 3	_	_	9	
No. 4	_	_	9	
No. 5	_		9	
No. 6	_	_	9	
No. 7	土坑3基	縄文土器片6点(中期末)、剥片1点	5.44	
No. 8	土坑3基	縄文土器片 62 点(前期:円筒下層式、中期:大木 8b 式)、 剥片 6 点	9.12	
No. 9	_	縄文土器片 365 点(前期:円筒下層式、中期:大木 8b 式)、 石核 4 点、剥片35点、礫27点、近世陶磁器片 1 点、鉄滓 1 点	14	
No. 10	_	縄文土器片9点(前期:円筒下層式、中期)、石小刀1点、剥片2点	7.2	
No. 11	竪穴住居跡 1 棟、土坑 3 基	縄文土器片10点、石小刀1点、剥片3点	11.66	
No. 12	竪穴住居跡 1棟	縄文土器片1点(中期)、弥生土器片2点、剥片4点、 棒状礫1点	7.04	十和田 a 火山灰 二次堆積層検出
No. 13	_	縄文土器片1点	4.8	
No. 14	_		6.08	
No. 15	土坑3基	縄文土器片7点、剥片8点	7.7	土坑は配石の可 能性あり
No. 16	土坑1基、配 石1基	縄文土器片 35 点、剥片 3 点	12.5	
No. 17	土坑4基	縄文土器片3点(中期末)、石核1点	12.5	土坑は配石の可 能性あり
No. 18	_	_	7.5	
No. 19	_	_	7.7	
No. 20	_	_	15.4	
No. 21	_	_	6	
No. 22	_	縄文土器片 1 点	9.6	
		計	198.24	

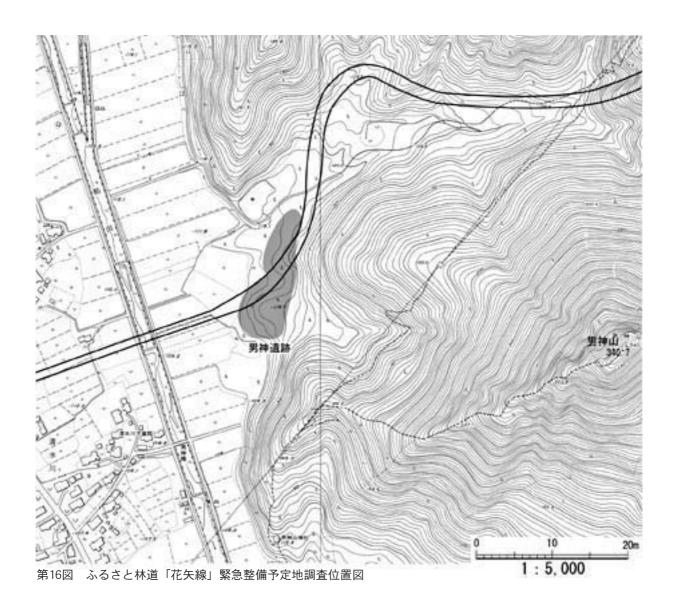
8. 所 見

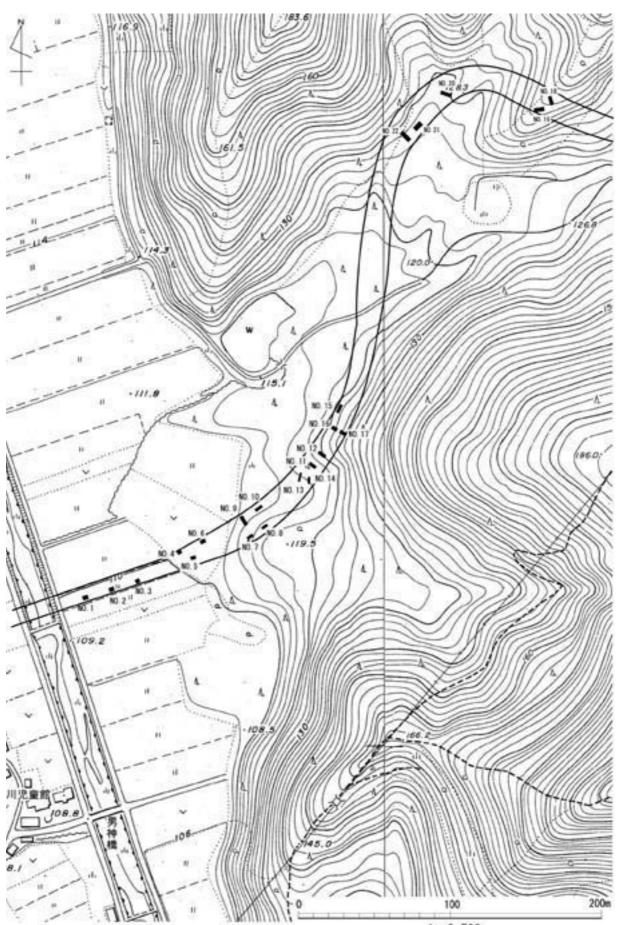
No. $1 \sim$ No. 6 およびNo. $18 \sim$ No. 21 は遺構の検出、遺物の出土は一切なく、遺跡は存在しないと思われる。

また、No. 22 は流れ込みの土器片 1 点のみの出土のため、遺跡は存在しないと思われる。

縄文時代の遺構・遺物が確認された、No.7~No.10の位置する台地上と台地下および、No.11~No.17の位置する台地上と台地斜面中腹部のテラス状地形を呈する部分(No.13)までを新発見の遺跡「男神遺跡」として登録した。

よって、大館市教育委員会は、ふるさと林道建設工事着工前に発掘調査を実施しなければならないと判断し、北秋田地域振興局と協議し平成17年4月26日(火)~平成17年9月2日(金)に発掘調査を実施した。調査結果については、『男神遺跡発掘調査報告書』大館市文化財調査報告書第1集(2008)に報告した。 (板橋)





第17図 ふるさと林道「花矢線」緊急整備予定地調査トレンチ配置図



調査区遠景(西から)



No.7トレンチ



No. 8 トレンチ



No. 9 トレンチ





No. 7トレンチ出土遺物



No. 8トレンチ出土遺物







No. 9トレンチ出土遺物



No. 9トレンチ出土遺物



No. 9 トレンチ出土遺物



No. 9トレンチ出土遺物



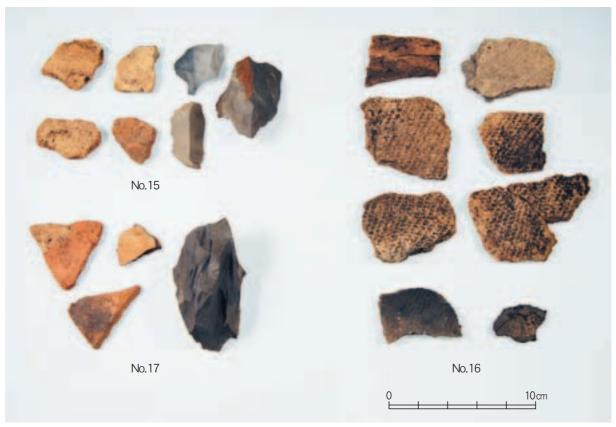
No. 9 トレンチ出土遺物



No.10 トレンチ出土遺物



No.11・12 トレンチ出土遺物



No.15・16・17 トレンチ出土遺物

8 萩ノ台Ⅱ遺跡(大館池内局携帯電話無線基地局建設予定地)

- 1. 調 查 対 象 所 在 地 大館市池内字上野 49 番地 1
- 2. 確認調査期間 平成17年3月3日(木)~3月15日(火)
- 3. 確認調查対象面積 190 ㎡
- 4. 調査地の立地と現況
 - (1) 立 地

大館市役所から南へ約1.6 km、古米代川沖積地に面する標高約65 mの台地上に位置する。 池内遺跡、現在は大館南バイパス池内ランプ北側と沢を挟んで隣接する。

- (2) 現 況 原 野
- 5. 確認調査の方法

工事予定地内に測量杭・通路等に支障のないように、東西 3 m、南北 13 mのトレンチを設定し、人力により表土以下を削土した後、地山面を精査して遺構・遺物の有無を確認した。トレンチ北西側に遺構(S K T 01)を一部検出したため、トレンチを西側に 5 mの幅で 6 m延長した。そして北側に 3.2 mの幅で 2.7 m、南側に 4.5 mの幅で 4.5 m、さらに南側に 2.5 mの幅で 3 m延長した。試掘面積約 109.5 mで対象面積の 57.6%に相当する。

6. 確認調査結果

(1) 層 序 I 層 粘質黒色土 (表土) 約 20 cm~30 cm II 層 ローム層 (地山面)

(2) 検出遺構と出土遺物

検出された遺構は、円形土坑 (SK 01) が 1 基、落し穴状遺構 (SKT 01・02) が 2 基であった。遺物は、 I 層より頁岩製の削器片が 1 点のみ出土した。

また、地山面にキャタピラ痕が検出されたことから、現在の地山面は人為的に整地工事されて残された部分であると思われる。

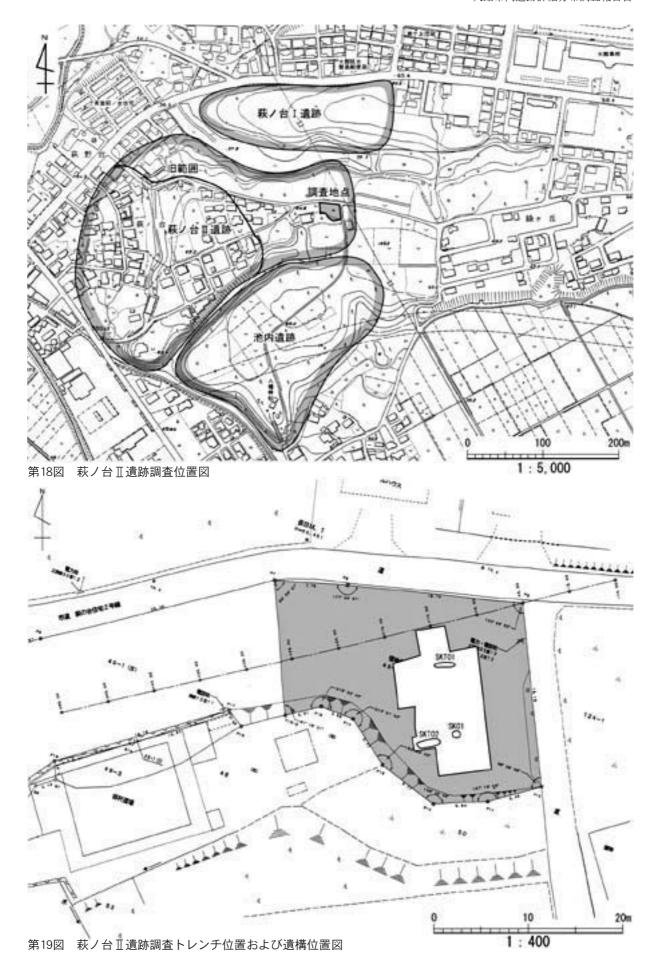
7. 所 見

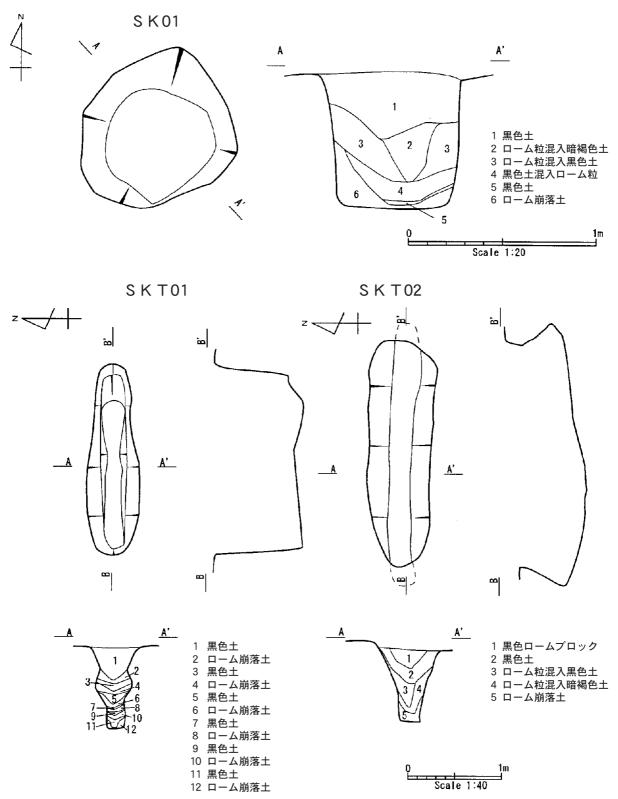
検出された遺構は、円形土坑と落し穴遺構で、池内遺跡または萩ノ台II遺跡の住人の狩場であったと想定される。池内遺跡とは沢が隔てているため、同一台地上の萩ノ台II遺跡の範囲を広げることとした。

工事区域内における遺構密度は希薄である。また遺物包含層は、整地工事により削平されており、遺跡範囲内であるが、発掘調査の必要はないものと判断した。 (滝内)



調査区近景(南東から)





第20図 検出遺構

第 3 表 遺構一覧

	番号	平面形	規 模 (m)			長軸
			確認面	底 面	深さ	区判
	S K 01	円形	0.87×0.82	0.62×0.57	0.74	
	SKT01	溝 形	2.06×0.60	1.88×0.16	0.88	東 西
	SKT02	溝 形	2.46×0.66	2.84×0.24	0.74	東 西



9 大館葛原局携帯電話無線基地局建設予定地(遺跡存在可能性地)

- 1. 調 査 対 象 所 在 地 大館市葛原字下ノ沢 33 番地
- 2. 確認調查期間 平成17年3月16日(水)~3月20日(日)
- 3. 確認調查対象面積 110 ㎡
- 4. 調査地の立地と現況
 - (1) 立 地

大館市東部、JR花輪線沢尻駅より北西に約800mの下ノ沢内(標高約97m)に位置する。 西は葛原館跡(最上位面標高約118m)、東は竹林遺跡(標高約113m)と隣接する。

- (2) 現 況 原 野
- 5. 確認調査の方法

予定地内に測量杭・通路等に支障のないように、南北15m、東西3mのトレンチを設定し、 人力により表土以下を削土した後、地山面を精査して遺構・遺物の有無を確認した。

確認調査における試掘面積は45㎡で、対象面積の40.9%に相当する。

- 6. 確認調查結果
 - (1)層序

トレンチ北側

I層 粘質黒色土 (表土) 約 30 cm

Ⅱ 層 礫混入明褐色土 約 30 cm~ 40 cm

Ⅲ層 黄褐色砂混入暗褐色土 約 40 cm~60 cm (人為整地土)

IV層 礫混入青灰色粘土

トレンチ南側

I層 粘質黒色土(表土) 約 20 cm

Ⅱ 層 礫混入明褐色土 約 20 cm~30 cm

Ⅲ層 黄褐色砂混入暗褐色土 約 20 cm~30 cm (人為整地土)

 IV層 黄褐色砂
 約 3 cm

 V層 青灰色粘土
 約 20 cm

VI層 黄色砂

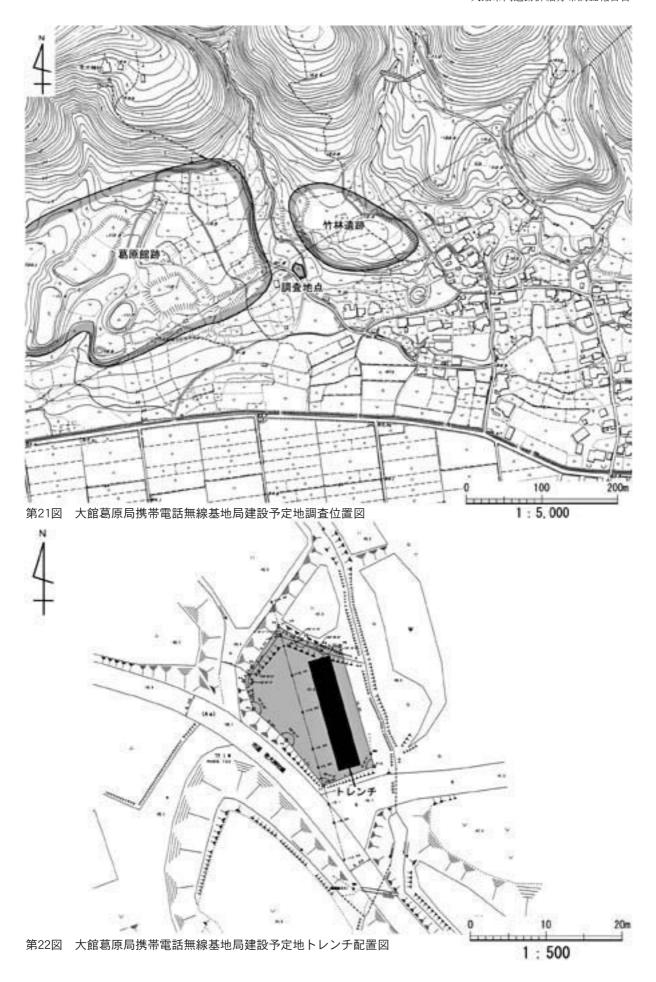
(2) 検出遺構と出土遺物

遺構は一切検出されなかった。遺物は、縄文中期土器片 11 点、土師器片 9 点、剥片 6 点、石製品 1 点、近世陶磁器片 1 点が I・II 層より出土した。

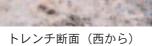
7. 所 見

遺構の検出は一切なく、遺物の出土はあったが量も少なく、出土した層は現代に相当し、隣接する葛原館跡・竹林遺跡からの流入によるものと思われる。

よって、工事予定区域内に遺跡は存在しないと思われ、発掘調査の必要はないものと判断した。 (滝内)









トレンチ(南から)



出土遺物

10 大館野遺跡(大館白沢局携帯電話無線基地局建設予定地)

- 1. 調 查 対 象 所 在 地 大館市白沢字白沢 1155 番地 1
- 2. 確認調查期間 平成17年3月23日(水)~3月31日(木)
- 3. 確認調查対象面積 200 ㎡
- 4. 調査地の立地と現況
 - (1) 立 地

大館市北部、JR奥羽本線白沢駅から北西へ約1km。標高約100mの広大な台地上が大館 野遺跡であり、調査地は遺跡の北西端台地縁に位置する。調査地北側の低位面との比高差は 5~7m。

- (2) 現 況 原 野
- 5. 確認調査の方法

予定地内に測量杭・通路等に支障のないように、東西3m、南北8mのトレンチを設定し、 人力により表土以下を削土した後、地山面を精査して遺構・遺物の有無を確認した。

確認調査における試掘面積は24㎡で、対象面積の12%に相当する。

6. 確認調査結果

(1)層序

トレンチ北側 (一部撹乱あり)

I層 粘質黒色土 (表土) 約 30 cm

Ⅱ層 黄色土ブロック・軽石混入暗褐色土 約 30 cm (人為整地土)

Ⅲ層 黒色土 (旧表土) 約 5 cm~ 8 cm

IV層 明褐色土 約 10 cm~ 15 cm

V層 シラス砂

トレンチ南側

I層 粘質黒色土(表土) 約 10 cm

Ⅱ層 黄色土ブロック・軽石混入暗褐色土 約 15 cm (人為整地土)

Ⅲ層 明褐色土 約 15 cm

IV層 シラス砂

(2)検出遺構と出土遺物

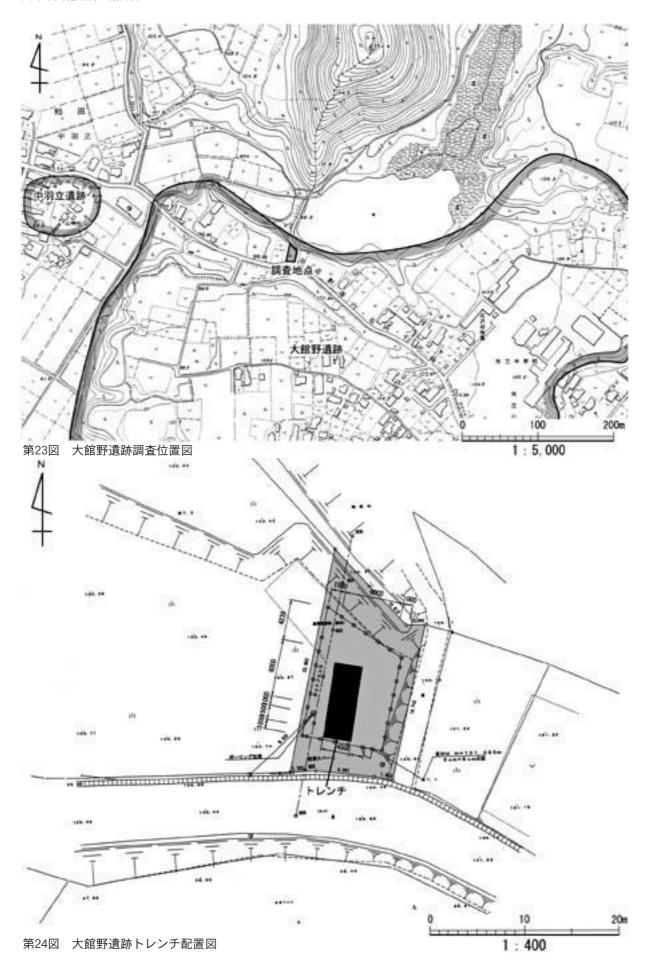
遺構は一切検出されなかった。遺物は、縄文前期土器片2点、土師器片39点、剥片3点が I・II 層より出土した。

7. 所 見

調査地内の大半は、土地改良・耕作等による削平が明褐色土層まで達しており、北側の一部 に黒色土層(旧表土)がわずかに残存するだけである。

遺構の検出は一切なく、遺物は現代の人為整地層より上での出土であり、量も少なく密度が濃いとはいえない。

よって、周知の遺跡「大館野遺跡」の範囲内ではあるが、工事予定区域内には遺跡は存在しないと思われ、発掘調査の必要はないものと判断した。 (滝内)





調査区近景 (西から)



トレンチ北側断面(東から)



トレンチ (北から)



出土遺物

11 ふるさと林道「花矢線」緊急整備予定地(遺跡存在可能性地)

- 1. 調 查 対 象 所 在 地 大館市白沢字松原地内
- 2. 確認調查期間 平成17年7月20日(水)~7月23日(土)
- 3. 確認調查対象面積 2,793 m²
- 4. 調査地の立地と現況
 - (1) 立 地

大館市北部、男神山(標高 340.7m) 北麓の標高約 140 ~ 160m の台地上。 県指定史跡「矢立廃寺跡」より北西に約1.4km。

- (2) 現 況 山 林
- 5. 確認調査の方法

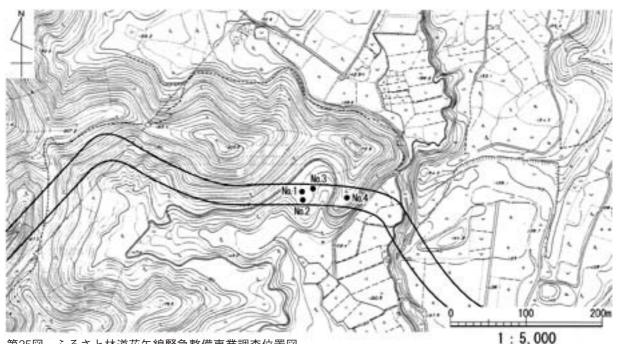
工事予定地内に測量杭・通路等に支障のないように、№.1~№.4のトレンチを設定し、人力 により表土以下を削土した後、地山面を精査して遺構・遺物の有無を確認した。

- 6. 確認調査結果
 - (1)検出遺構と出土遺物
 - ・No.1トレンチ(2m×4m)遺構の検出、遺物の出土ともになし。
 - ・No.2トレンチ (2m×4m) 第 I 層 (表土) と第 II 層 (暗褐色土) の境目より 縄文晩期土器片7点出土するも、遺構の検出なし。
 - ・№.3トレンチ(2m×4m)遺構の検出、遺物の出土ともになし。
 - ・№4トレンチ (3 m×2 m)遺構の検出、遺物の出土ともになし。

7. 所 見

縄文晩期土器片が表土層下位から出土したが、遺構の検出は一切なく、工事区域内に遺跡は 存在しないと思われ、発掘調査の必要はないと判断した。

なお、工事区域内での遺跡は確認できなかったが、縄文晩期土器片7点が出土したことから、 周辺に遺跡が存在すると思われる。周知の遺跡は確認されていないため、今後、この周辺の詳 細な分布調査の実施が必要である。 (板橋)



第25図 ふるさと林道花矢線緊急整備事業調査位置図



出土遺物

12 土飛山館跡(大館市豊町地内宅地造成予定地)

- 1. 調 查 対 象 所 在 地 大館市豊町 94 2
- 2. 確認調査期間 平成17年10月12日(水)~10月21日(金)
- 3. 確認調查対象面積 284.502 ㎡
- 4. 調査地の立地と現況
 - (1) 立 地

藩制期大館城下町の西端に位置する、通称「土飛山(どびやま)」と呼ばれる小高い台地上に、空堀を配して城館が構築されている。これが「土飛山館跡」で、当該地は土飛山館跡の西端にあたり、戦前は畑地、戦後に田堰畳工場が建設されていたが、平成17年3月に工場を解体、同敷地に宅地造成をしようとするものである。

- (2) 現 況 宅 地
- 5. 確認調査の方法

宅地造成予定地内の最も標高の高い北東部と東部に2箇所のトレンチを設定し、人力により 表土以下を削土した後、地山面を精査して遺構・遺物の有無を確認した。

- 6. 確認調査結果
 - (1) 検出遺構

No. 1 $\triangleright \nu \rightarrow f$ (3 m \times 7 m = 21 m²)

予定地内の北東部に東西 7 m、南北 3 mのトレンチを設定して実施した。表層には砂利を叩き締めてあり、また、畳工場解体時の敷き礫やコンクリート片を盛土していて手掘り作業は難渋した。盛土・砂利(5~40 c m)の表層下は、暗褐色土(10~40 c m)、風化によるボソボソのシラス・ロームの混合土(10~20 c m)で、平均 60 c m下で地山面となる。トレンチ内からは、東南隅に竪穴住居跡 1 棟、トレンチ東部中央に土坑 1 基、トレンチ北東隅から南壁中央に走る溝跡 1 条を確認した。

No. 2 $\vdash V \supset f$ (3.5 m × 6 m = 21 m²)

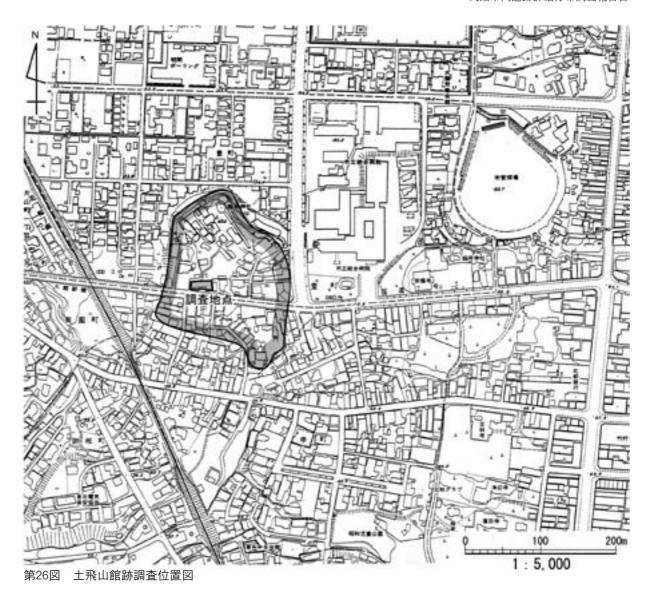
No. 1トレンチの南側、敷地東縁に沿って東西 3.5 m、南北 6 mのトレンチを設定して実施した。こちらは表層施業はそれほど行われていない。 $2\sim5$ c mの薄い表層を除去すると、 $15\sim20$ c mほどの暗褐色土、 $5\sim10$ c mの風化ローム層があって、平均 40 c m下で地山面となる。トレンチ内からは、北東隅に竪穴住居跡が確認され、これはNo. 1 トレンチ南東隅の竪穴住居跡と同一で 1 棟となる。トレンチ南東隅に竪穴住居跡 1 棟。トレンチ中央部に竪穴住居跡 1 棟を確認し、これにはカマド跡も確認した。また、トレンチ北東部から西壁中央に走る溝跡 1 条を確認。

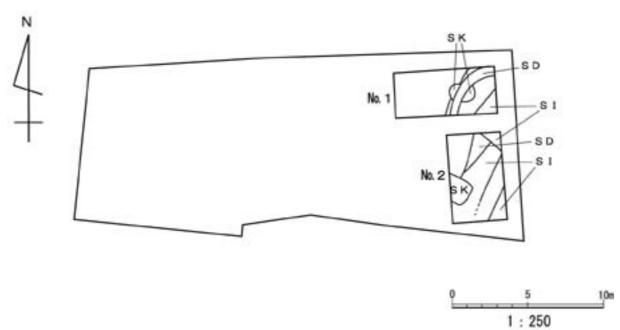
(2) 出土遺物

両トレンチから土師器片(甕・坏)が212点、須恵器片(甕)14点、羽口片7点、土錘2点、青白磁片1点、縄文土器片1点が出土した。

7. 所 見

予定地内の東側1/4は地内で最も標高が高く旧状をとどめているが、西側3/4は旧地形斜面である。よって、予定地内の東側の発掘調査が必要と判断し、継続して平成17年10月25日(火)~28日(金)まで大館市教育委員会が発掘調査を実施した。調査結果については、大館郷土博物館研究紀要『火内』第8号(2008)に報告した。 (板橋)





第27図 土飛山館跡調査トレンチおよび遺構配置図





調査区近景(西から)

No.1トレンチ (北東から)



No.2 トレンチ (北西から)



No.2 トレンチ竪穴カマド跡(北西から)



出土遺物

13 中仕田 I 遺跡 (田代本郷局携帯電話無線基地局建設予定地)

- 1. 調 查 対 象 所 在 地 大館市早口字八幡岱 37 1
- 2. 確認調查期間 平成17年11月2日(水)~11月5日(土)
- 3. 確認調査対象面積 306 ㎡
- 4. 調査地の立地と現況
 - (1) 立 地

JR奥羽本線早口駅の北西約4.5km、中仕田集落北端の八幡神社北側、早口川河岸段丘上に位置する。中仕田集落南端の予定地と同標高の段丘上に縄文時代の遺跡である中仕田Ⅱ・中仕田Ⅲ遺跡がある。

- (2) 現 況 畑 地
- 5. 確認調査の方法

予定地内に測量杭・通路等に支障のないように、東西8m、南北2mの2箇所のトレンチを設定し、人力により表土以下を削土した後、地山面を精査して遺構・遺物の有無を確認した。確認調査における試掘面積は32㎡で、対象面積の10.5%に相当する。

- 6. 確認調査結果
 - (1) 層 序 I 層 耕作土 約20 cm

Ⅱ層 砂利混入暗褐色土 約20 cm

Ⅲ層 漸移層 約10 cm Ⅱ層との境が激しい波状を呈する。

Ⅳ層 粘質黄色ローム(地山面) Ⅲ層との境が緩やかな波状を呈する。

(2) 検出遺構と出土遺物

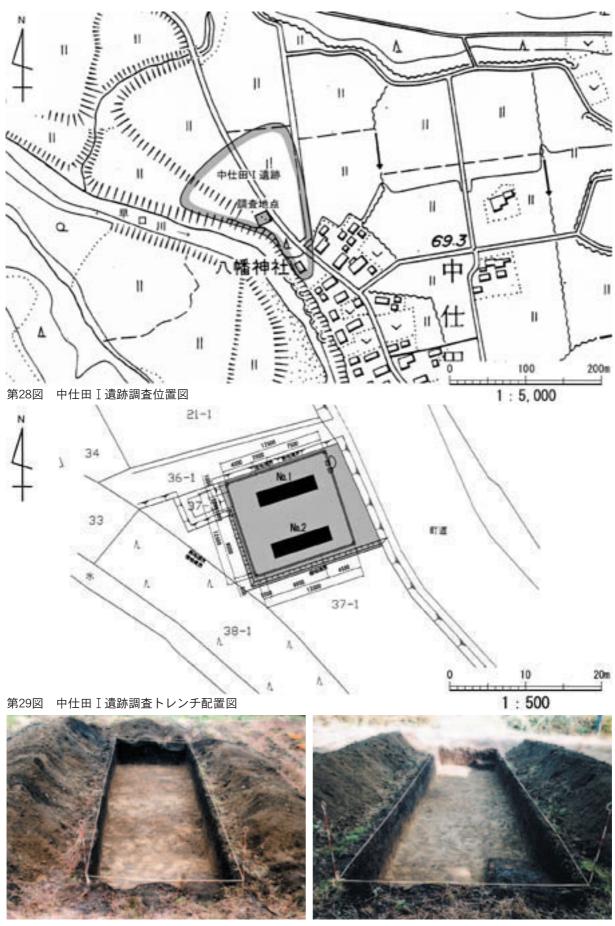
遺構の検出、遺物の出土は一切なかった。

7. 所 見

遺構・遺物は一切確認されなかったため、周知の遺跡「中仕田 I 遺跡」の範囲内であるが、 工事予定区域内に遺跡は存在しないと思われ、発掘調査の必要はないものと判断した。 (板橋)



調査区近景(北から)



No.1 トレンチ (西から)

No.2 トレンチ (西から)

14 十二所地区公民館建設予定地(十二所代官所跡)

1. 調 査 対 象 所 在 地 大館市十二所字元館・字片町・字中町地内

2. 確認調查期間 平成18年3月3日 除雪作業 平成18年3月14日(火)~3月30日(木)

3. 確認調查対象面積 8,042.37 m² 4. 工事区域内遺跡面積 約 5,600 m²

5. 調査地の立地と現況

(1) 立 地

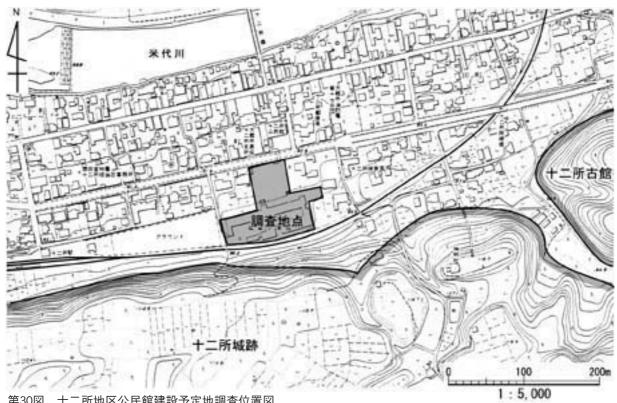
大館市東部、JR花輪線十二所駅の東約300m。米代川左岸(南側)の標高約84~87mの 米代川沖積面に立地する。北側高台上の十二所城跡との比高差は約25~30m。

- (2) 現 況 荒蕪地(市有地)
- (3) 歷史的環境

元和元年の一国一城令により、元和6年(1620)に十二所城(字真山岱・字台、調査地南 側の高台上)を破却して、城跡に城代塩谷氏の居館として「再来館」が建造された。そして 貞享5年(1688)、城代茂木知恒(ともつね)の代に現在地に代官所「再来館」を移築した。

寛政5年(1793)に郷校「成章書院」が設立され、寛政12年に調査区に学舎が完成して いる。以後、幕末期まで存続したが、慶応4年(1868=明治元年)の戊辰戦で、居館「再来 館」と「成章書院」は焼失した。

明治7年(1874)、新学制により「成章小学校」が同地に設置されたが、同19年(1886) に焼失、同21年に校舎新築落成、同36年・41年・大正8年・同11年に増改築、平成3年 に新校舎を街の西側に建て、調査地にあった旧校舎は平成4年夏に取り壊した。



第30図 十二所地区公民館建設予定地調査位置図

6. 確認調査の方法

当該地は十二所中心街区の雪捨て場となっていて、本年度は豪雪のため排雪量が異常に多く、平均3m、盛り上げたところは5m以上もあった。そこで調査区選定地に除排雪ローダーを入れて調査区を確保した。「再来館」建設地と考えられる高台上に6箇所のトレンチ(合計面積186㎡)と、その北側一段低いかつての校庭面に1箇所のトレンチ(面積14㎡)を設定し、人力により表土以下を削土した後、地山面を精査して遺構・遺物の有無を確認した。

7. 確認調査結果

(1) 層序 I層 盛土整地層 約 30 cm

Ⅱ層 砂質黒色土 約 10 cm

Ⅲ層 盛土シラス整地層 約 15~60 cm

IV層 粘質黒色土 約 $5 \sim 20 \, \mathrm{cm}$

V層 地山シラス

(2) 検出遺構

①No. 1 $\vdash V \supset \mathcal{F} (3 \text{ m} \times 30 \text{ m} = 90 \text{ m}^2)$

高台東部から中央部に東西に設定。表層は校舎取り壊し後の整地施業で、校舎基礎コンクリート塊や人頭大の玉石をブルドーザー等で充填されていて、手掘り作業は難渋した。

西側に検出したAブロックでは南側に焼土・炭化物を埋積した溝遺構と東端に不規則な列石を伴う。Aブロックの東側1mほどの空白帯を挟んで、南側に不規則な列石を伴うBブロックを検出した。これらは建物が焼失した際のそれぞれの建物の東端(Aブロック)と西端(Bブロック)を示すもので、溝遺構は軒下の雨落溝、不規則な列石は屋根の重し石が、建物焼失によって落ちた状態を示していると考えられる。

トレンチ東側の地山直上面に多数の掘立柱穴を検出した。

②No. $2 \vdash V \supset f (3 m \times 6 m = 18 m^2)$

トレンチ西側に南北方向の校舎基礎コンクリートを検出。状況はM.1トレンチと同様であり、IV層と地山シラス面上に焼土・炭化材・炭層を検出し、直径 $50\sim60$ c mほどの掘立柱掘り方 2 本と、不規則な集石およびトレンチ南壁下に溝遺構を検出した。

③ No. $3 \vdash V \supset f (3 m \times 6 m = 18 m^2)$

トレンチほぼ中央に東西に走る校舎基礎と、それから南に直交する校舎基礎をNo.1トレンチと同様の状態で検出した。トレンチ内東南部、すなわち校舎基礎で分割される南東部に東西 2.5 m、南北 1.3 mの竪穴状遺構を検出、これはトレンチ外に存在する竪穴の北東コーナーに当たると考えられる。

No. 3トレンチと同様、トレンチほぼ中央に東西に走る校舎基礎を検出。トレンチ南壁下に 溝遺構を検出。トレンチ西側に 2 m× 1.5 mの隅丸矩形の土坑 1 基 (SK01)、トレンチ西端 に SK01 に切り込まれた、幅 1.5 m、長さ不明の土坑 1 基 (SK02)、 SK01 の南側に接 して長さ 1.5 m、幅不明の土坑 1 基 (SK03) を検出。 SK03 は溝遺構に切り込まれている。

校舎基礎は検出されず。地山シラス面に色調の異なる五つの面を検出。これらの相互関係は把握しなかったものの、もっとも新しいと考えられる暗灰色の不整形土坑は、その掘り込み面に沈殿によると考えられる鉄分が付着している。これらの異色面が自然形成によるものか、人工的なものかは判断できなかった。

⑥ No. 6 トレンチ $(2 \text{ m} \times 7 \text{ m} = 14 \text{ m}^2)$

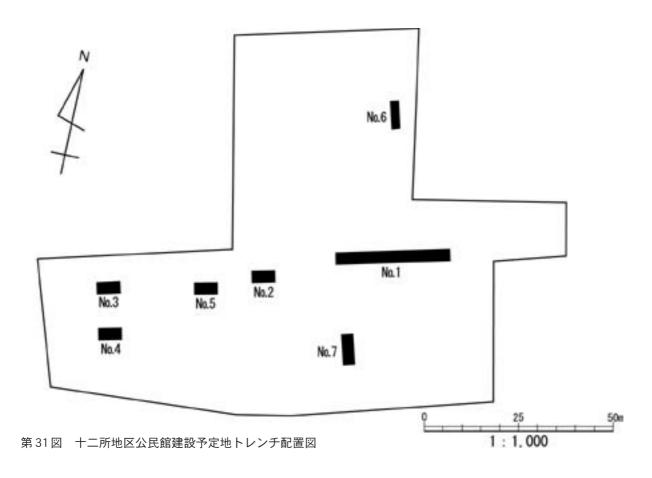
高台下の旧校庭面に設定したトレンチである。シラスが幾層にも堅く叩きしめられており、 ツルハシでも掘り下げるのが困難であった。よって南端2m部分のみ掘り下げた。

シラス整地層は $50\sim60$ c mの厚さに叩きしめており、実に丁寧な施業がなされていた。十二所城下町はかつて旧城跡にあって、廃城後、現在の市街地域を埋め立て整地して城下町を創ったと伝えられている。調査では、現地表から掘り下げた暗渠を確認した。この暗渠は廃校以前に設置された可能性が高い。よって、シラス整地はそれ以前の施業と考えられる。また、整地層下のIV層には葦茎が全体に含まれており、これらが城下町造成のための埋め立て整地施業前の地表ととらえられる。

以上のことからシラス整地層は、城下町造成もしくは「再来館」建設にかかわる整地と考えられる。その丁寧な施業のあり方から十二所城下町の中心となる「再来館」建設のための整地と思われる。

⑦No. 7 トレンチ (3 m × 8 m = 24 m²)

トレンチ北側に東西方向に走る校舎基礎を確認した。トレンチ中央から北側にかけて幅 2.5 m ほどの掘り込みがあったが、出水が激しく詳細を把握することはできなかった。ただし、校舎基礎はこの掘り込みの上位から行われている。掘り込みの南側は平坦なシラス面で、 $50 \sim 80 \text{ c}$ mほどの掘り方、掘り方を切り込んでいる幅 80 c mほどの溝を検出した。



(3) 出土遺物

遺物はN0.1トレンチで集中して出土し、III・IV層から出土した数点以外は、ほとんどが I・II 層からの出土であった。その多くは、 $18\sim19$ 世紀の陶磁器類で、ほかに土製品 36 点、金属製品(釘・環状製品)11 点、銅銭(天橲通宝)1 枚が出土した。

陶磁器片は、総数 2,128 点出土した (No. 1 1,772 点、 No. 2 86 点、 No. 3 64 点、No. 4 82 点、 No. 5 117 点、 No. 7 7点)。陶磁器産地は、肥前系陶磁器、瀬戸美濃のほか、不明 (在地系) のものも多い。器種は、磁器では、碗、皿、鉢、片口鉢、徳利、猪口、紅皿、陶器では、擂鉢、蓋、甕、灯明具がある。

8. 所 見

南側台地上のトレンチによる確認調査によって、新発見の遺跡、十二所代官所跡「再来館」に関係すると考えられる柱穴・溝・堀り方・土坑の各遺構が、慶応4年の戊辰戦による焼失面を伴って検出された。また、出土した陶磁器は、近現代のものも含まれるが、多くは近世染付けの碗・皿・瓶子の類、擂鉢・甕の破片である。

以上のことから、学校建築基礎工事で破壊を受けている部分もあるが、近世代官所「再来館」 の遺構は残されている。よって、当該地において土木・建設工事等の事業を実施する際には、 事前の発掘調査が必要であると判断した。 (板橋)



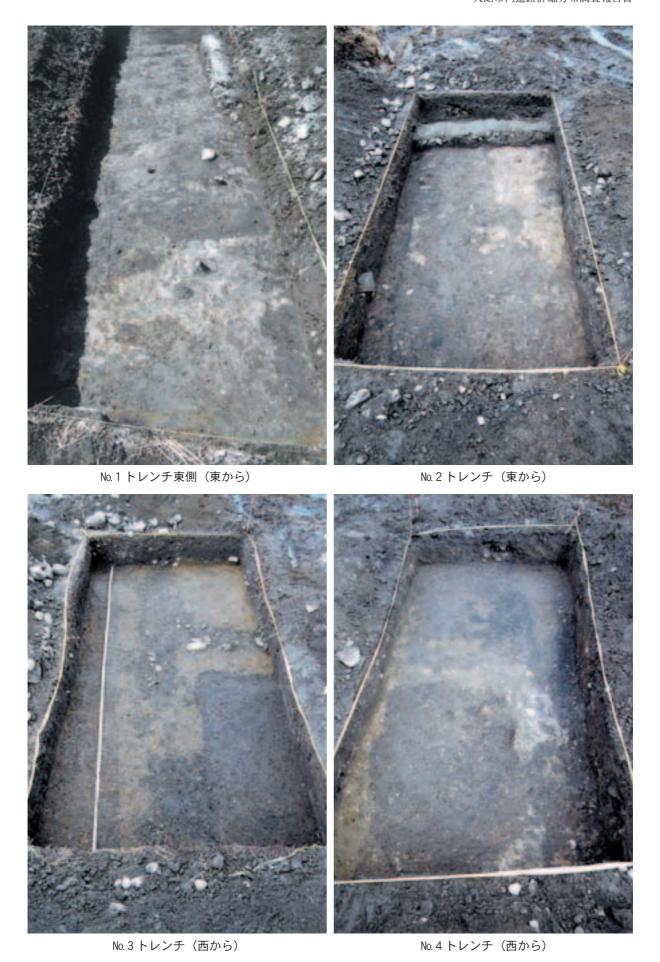
調査区近景(西から)



No.1 トレンチ西側 A ブロック (南から)

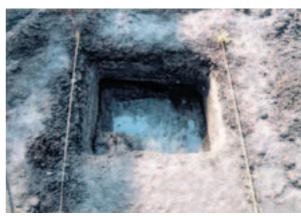


No.1 トレンチ (西から)



-55-





No.6トレンチ (北から)



No.5トレンチ (西から)

No.7トレンチ(南から)



No.1 トレンチ焼土上位面出土遺物



No.1トレンチ出土遺物



No.1トレンチ出土遺物



No. 2 トレンチ出土遺物



No. 3 トレンチ出土遺物



No. 4 トレンチ出土遺物



No. 5 トレンチ出土遺物



No.7トレンチ出土遺物





金属製品

銅銭(天橲通宝)

15 大館二井田局携帯電話無線基地局建設予定地(遺跡存在可能性地)

- 1. 調 查 対 象 所 在 地 大館市二井田字前田野 71 5
- 2. 確認調查期間 平成18年4月25日(火)
- 3. 確認調査対象面積 162.44 m²
- 4. 調査地の立地と現況
 - (1) 立 地

大館市街地の南、JR花輪線扇田駅から西へ約 2 km の台地上(標高約 58 m)に位置する。調査地北側の低位面との比高差は $5 \sim 6 \text{ m}$ 。

- (2) 現 況 原 野
- 5.確認調査の方法

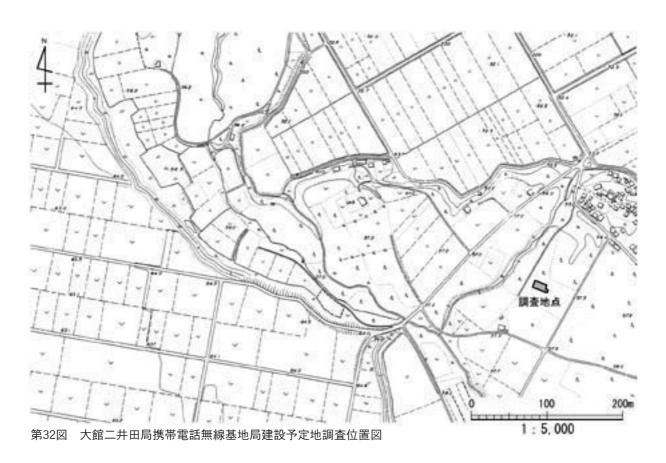
予定地内に測量杭・通路等に支障のないように、南北2m、東西5mのトレンチ4箇所を設定し、人力により表土以下を削土した後、地山面を精査して遺構・遺物の有無を確認した。確認調査における試掘面積は42.25㎡で、対象面積の26%に相当する。

- 6. 確認調查結果
 - (1) 層 序 I 層 粘質黒色土 (表土) 約 20 ~ 25 cm II 層 シラス (地山面)
 - (2) 検出遺構と出土遺物

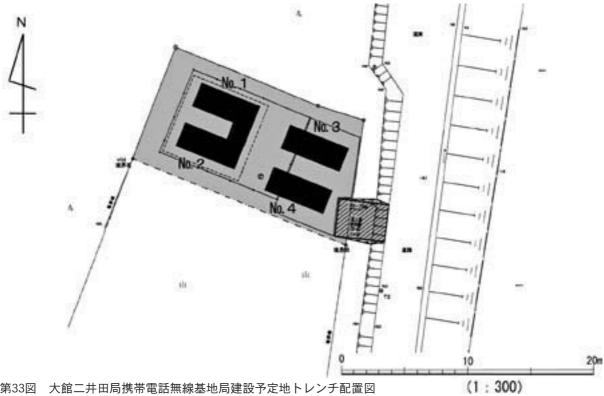
遺構は、溝跡が一条検出されたが、遺物は一切出土しなかった。

7. 所 見

調査地内の大半は、土地改良・耕作等による削平が地山面まで達していた。そのため、検出された溝跡は、現代のものと考えられる。よって、工事予定区域内に遺跡は存在しないと思われ、 発掘調査の必要はないものと判断した。 (滝内)



-61-



第33図 大館二井田局携帯電話無線基地局建設予定地トレンチ配置図



調査区近景 (南から)



No.1 トレンチ (東から)



No.2 トレンチ (東から)



No.1 トレンチ 溝跡北側断面



No.3 トレンチ (東から)



No.4トレンチ (東から)

16 比内町八木橋局携帯電話無線基地局建設予定地(遺跡存在可能性地)

- 1. 調 查 対 象 所 在 地 大館市比内町八木橋字畠沢岱1-1
- 2. 確認調查期間 平成18年8月3日(水)~8月11日(金)
- 3. 確認調查対象面積 256 ㎡
- 4. 調査地の立地と現況
 - (1) 立 地

大館市の南西部、JR花輪線扇田駅から南西へ約4.3km、同台地上に立地する畑沢遺跡の南約400m。摩当山塊の東麓に派生した標高78mの台地上に位置し、台地東側の低位面との比高差は7~8m。

- (2) 現 況 山 林
- 5. 確認調査の方法

予定地内の主要建物である鉄塔設置予定地を取り込むように、南北3m、東西15mのトレンチを設定し、人力により表土以下を削土した後に、地山面を精査して遺構・遺物の有無を確認した。確認調査における試掘面積は45㎡で、対象面積の17.6%に相当する。

6. 確認調査結果

(1) 層 序 I 層 表土 約 $8 \sim 10 \, \mathrm{cm}$ II 層 暗褐色土 約 $15 \sim 20 \, \mathrm{cm}$ III 層 黒色土 約 $10 \sim 15 \, \mathrm{cm}$ IV 層 漸移層 約 $10 \sim 15 \, \mathrm{cm}$

V層 ローム土(地山面)

(2) 検出遺構と出土遺物

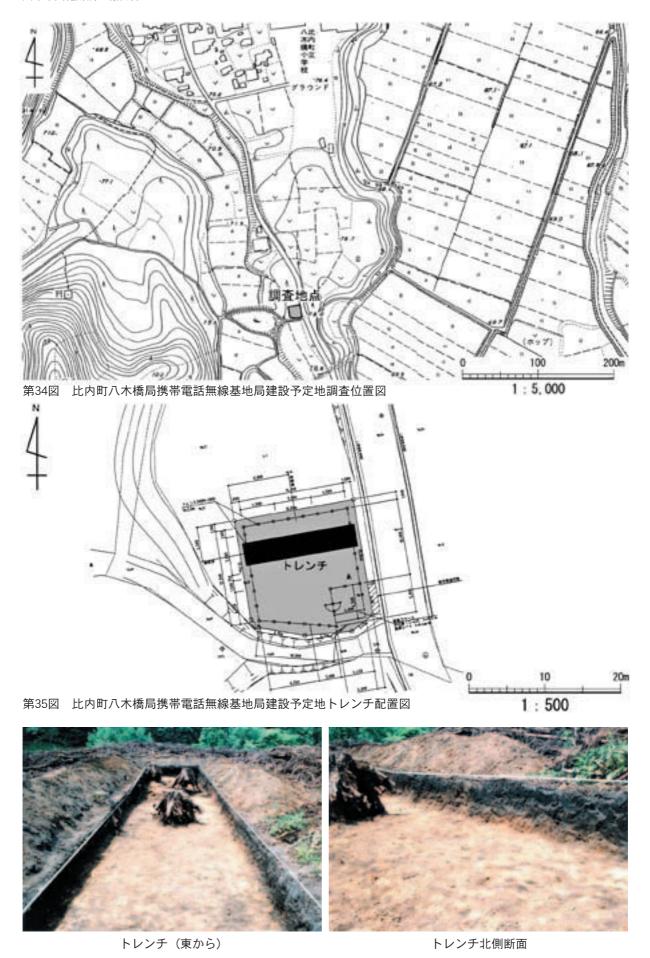
遺構の検出、遺物の出土は一切なかった。

7. 所 見

調査区内の土層は自然堆積層で、遺構・遺物が確認されなかったことから、工事予定区域内に遺跡は存在しないと思われ、発掘調査の必要はないものと判断した。 (板橋)



調査区近景(南東から)



-64-

17 萩峠遺跡(大館十二所2局携帯電話無線基地局建設予定地)

- 1. 調 查 対 象 所 在 地 大館市軽井沢字萩峠 35
- 2. 確認調査期間 平成18年9月5日(火)~9月14日(木)
- 3. 確認調查対象面積 200 ㎡
- 4. 調査地の立地と現況
 - (1) 立 地

大館市の東部、国道 103 号線に沿う東西 700 m、南北 350 mの独立段丘に残された萩峠遺跡の北斜面平坦部に位置し、台地北側の低位面(現水田面)との比高差は 7~8 m。

(2) 現 況 畑 地

5. 確認調査の方法

予定地内の主要建物である鉄塔設置予定地を取り込むように、南北 3 m、東西 12 mのトレンチと、その中央部に $3 \text{ m} \times 3 \text{ m}$ の拡張部を設定し、人力により表土以下を削土した後に、地山面まで精査して遺構・遺物の有無を確認した。確認調査における試掘面積は 45 mで、対象面積の 22.5%に相当する。

6. 確認調査結果

(1) 層 序 I 層 表土 約 15 cm

Ⅱ層 整地土 約 25 ~ 30 cm

Ⅲ層 砂質黒色土 約 10~15 cm

IV層 岩礫層 約 10 cm

V層 ローム土(地山面)

(2) 検出遺構と出土遺物

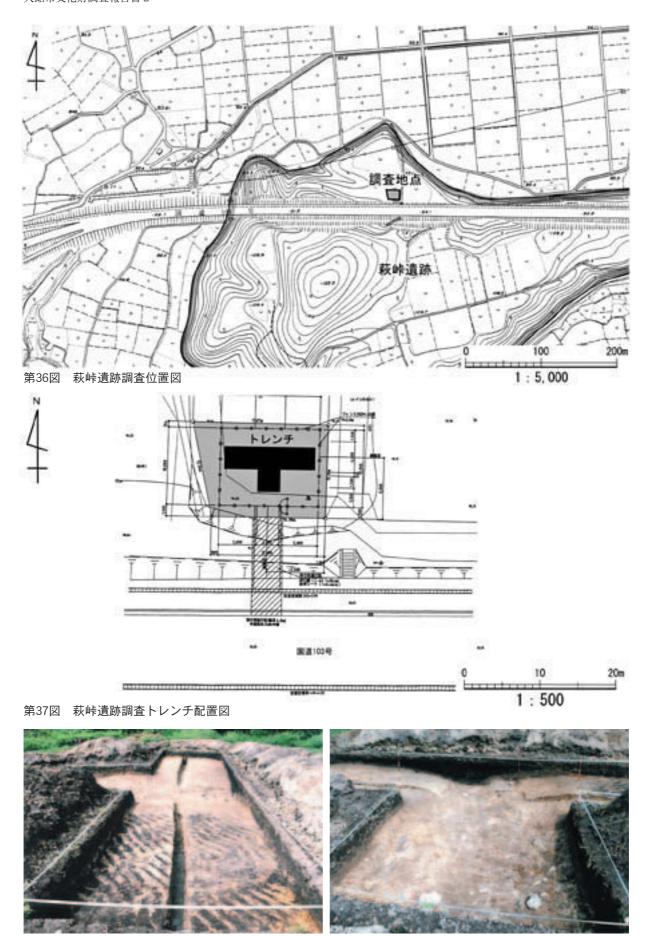
遺構の検出、遺物の出土は一切なかった。

7. 所 見

調査区内は昭和30年代後半にブルドーザーを入れて整地が行われた。整地層下に砂質黒色土の自然堆積層が見られるが、遺構・遺物が確認されなかったことから、周知の遺跡「萩峠遺跡」の範囲内ではあるが工事予定区域内に遺跡は存在しないと思われ、発掘調査の必要はないものと判断した。 (板橋)



調査区近景(東から)



-66-

トレンチ中央部 (南から)

トレンチ (東から)

18 比内町達子局携帯電話無線基地局建設予定地(遺跡存在可能性地)

- 1. 調 查 対 象 所 在 地 大館市比内町達子字前田野 62-1
- 2. 確認調查期間 平成18年10月11日(水)~10月13日(金)
- 3. 確認調查対象面積 200 ㎡
- 4. 調査地の立地と現況
 - (1) 立 地

大館市街の南、JR 花輪線扇田駅から南西に 1.7 km、同台地上に立地する笹館城跡の北 200 m。 達子森(標高 207 m)南西に広がる標高 70 m前後の前田野台地上に位置し、台地東側の低位面との比高差は 5 m前後。

(2) 現 況 原 野

5. 確認調査の方法

工事予定地内の主要建物である鉄塔設置予定地を取り込むように、南北9m、東西4mのトレンチを設定し、人力により表土以下を削土した後、地山面まで精査して遺構・遺物の有無を確認した。確認調査における試掘面積は36 mで、対象面積の18%に相当する。

6. 確認調査結果

V層 シラス層(地山面)

(2) 検出遺構と出土遺物

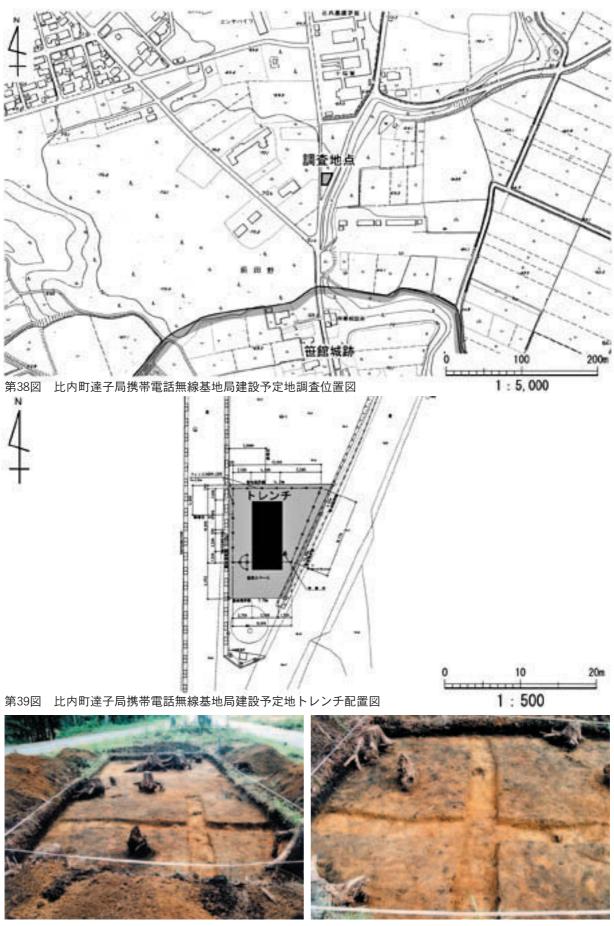
遺構の検出、遺物の出土は一切なかった。

7. 所 見

調査区内の土層は自然堆積層で、遺構・遺物が確認されなかったことから、工事予定区域内に遺跡は存在しないと思われ、発掘調査の必要はないものと判断した。 (板橋)



調査区近景(南から)



トレンチ(北から)

トレンチ北側サブトレンチ(西から)

19 大館大茂内局携帯電話無線基地局建設予定地(遺跡存在可能性地)

- 1. 調 查 対 象 所 在 地 大館市大茂内字諏訪下 231
- 2. 確認調查期間 平成18年11月1日(水)~11月9日(木)
- 3. 確認調查対象面積 330 ㎡
- 4. 調査地の立地と現況
 - (1) 立 地

大館市の北東部、大茂内集落の北側に広がる東西約 300 m、南北約 700 mの広大な台地が 諏訪台遺跡 (標高 95 \sim 115 m) で、調査地は台地南西側の低位面にあたり標高は 89.7 m前後。

(2) 現 況 原 野

5. 確認調査の方法

工事予定地内の主要建物である鉄塔・中継函設置予定地中軸線上に、南北3m、東西13mのトレンチを設定し、人力により表土以下を削土した後、地山面まで精査して遺構・遺物の有無を確認した。確認調査における試掘面積は39㎡で、対象面積の11.8%に相当する。

6. 確認調査結果

(1)層 月	序 I層	褐色土 (盛土)	約	$20\sim25\mathrm{cm}$
	Ⅱ層	粘質黒色土 (盛土)	約	$10 \sim 15 \mathrm{cm}$
	Ⅲ層	岩礫混在暗褐色土(盛土)	約	$40 \sim 50 \mathrm{cm}$
	IV層	粘質黒色土 (旧表土)	約	$10 \sim 15 \mathrm{cm}$
	V層	川礫混在褐色砂層	約	$40\sim50\mathrm{cm}$
	VI層	黄色砂層	約	$25 \sim 30 \mathrm{cm}$
	VII層	褐色砂礫層(地山面)		

(2) 検出遺構と出土遺物

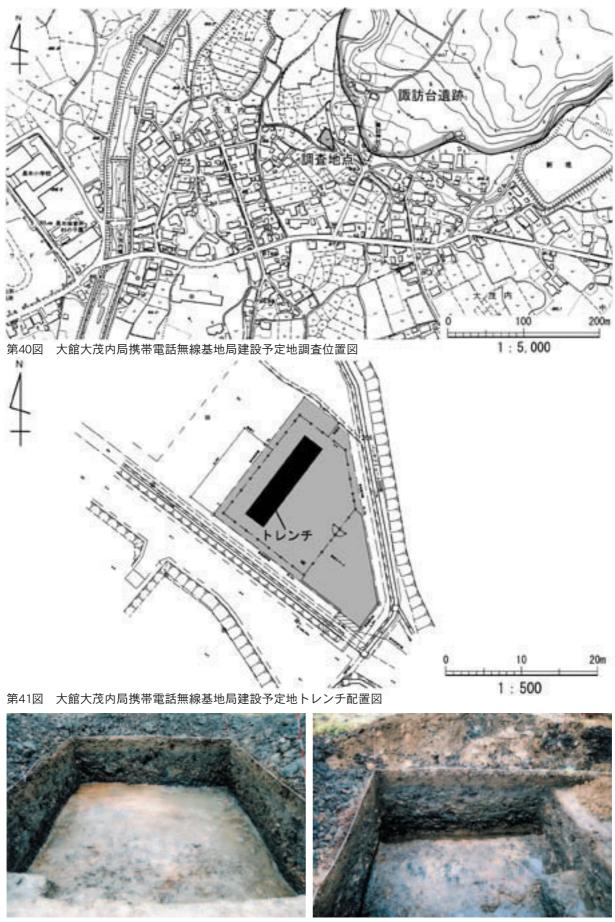
遺構の検出、遺物の出土は一切なかった。

7. 所 見

調査区内の土層は、IV層が旧表土にあたり、この層では遺構・遺物が確認されなかった。V 層以下は自然堆積層であり工事予定区域内に遺跡は存在しないと思われ、発掘調査の必要はないものと判断した。 (板橋)



調査区近景 (西から)



トレンチ北側(南西から)

トレンチ南側(南東から)

20 大館城跡(大館市上町地内住宅建設予定地)

- 1. 調 查 対 象 所 在 地 大館市字上町 2
- 2. 確認調査期間 平成18年12月1日(金)~12月16日(土)
- 3. 確認調查対象面積 248 ㎡
- 4. 調査地の立地と現況
 - (1) 立 地

大館市の中央部、大館城二の丸の一隅、上町通り北側屋並西端にあたり、元禄17年(1704)、享保13年(1728)、宝暦9年(1759)の『大館城下絵図』屋敷割りでは「密蔵院・八幡社地」とあり、大館城本丸の北東(丑寅)にあたる。国指定重要文化財の「大館八幡神社」とは別の八幡社である。明治6年(1873)の『大館町番號列戸繪図』では清水源佐衛門屋敷とある。調査地は、標高73mの台地上にあり北側の低位面は標高59m。

(2) 現 況 宅 地

5. 確認調査の方法

工事予定地内の住宅建物予定地を取り込むように、廃土地の関係から三期に分けて調査を実施した。第一期は調査区北側に南北 3 m、東西 9 m(27 m)のNo. 1 トレンチと東側に南北 6 m、東西 3 m(18 m)のNo. 2 トレンチを「L」字形に設定、第二期はNo. 1 ・No. 2 トレンチのL字形内側に南北 5.7 m、東西 5.7 m(32.49 m)の方形のNo. 3 トレンチを設定、第三期はNo. 2 ・No. 3 トレンチの南側に南北 2 m、東西 6 m(12 m)のNo. 4 トレンチと、No. 1 ・No. 3 トレンチの西側に南北 6 m、東西 2 m(12 m)のNo. 5 トレンチを設定し、人力により表土以下を削土した後、地山面まで精査して遺構・遺物の有無を確認した。確認調査における試掘面積は 105 mで、対象面積の 40.92% に相当する。

6. 確認調査結果

(1) 層序 I層 表土 約 8~10cm

Ⅱ 層 盛土整地層 約 15~20cm

Ⅲ層 盛土シラス層 約 20~30cm

Ⅳ層 地山シラス

(2) 検出遺構と出土遺物

No.1・No.2トレンチでは昭和20年代以降の建物基礎、ゴミ穴、水道敷設溝は検出したが、明治期以前の遺構と確認できるものはなかった。

No.3トレンチは、No.1・No.2トレンチ調査の結果、地山面が残存している可能性が高く期待したが、昭和建物の基礎、束柱根石、排水溝(土管)、ゴミ穴を検出、昭和建物の基礎布堀は盛土シラス層に埋もれていた。2本の柱根固め石を伴う柱穴を検出したが、柱穴内から丸頭釘とガラス片・コンクリート片が出土し、明治期以前・近世遺構とは考えられない。

No.4トレンチは、No.3トレンチの南側断面で堆積層序が整然としている可能性が高いと考えられたため設定したが、コンクリート片・ビニール・牛乳ビン片を混在するゴミ穴3基のみであった。

No.5トレンチでは、昭和建物の基礎・コンクリート片・ビニール・水道塩ビ管・牛乳ビン 片を混在するゴミ穴2基の検出だけであった。

以上、遺構の検出、遺物の出土は一切なかった。

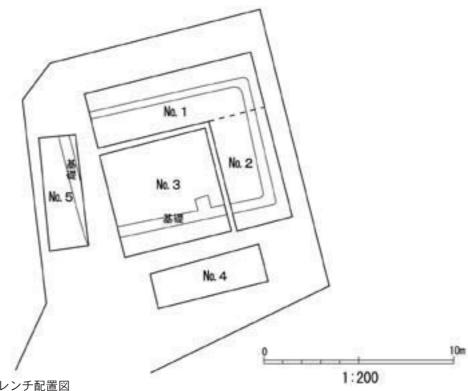
7. 所 見

調査区内における地山シラス層の上位堆積層は、人為による盛土整地層で、明治期以前の遺構・遺物は検出できなかった。予定地内では昭和20年代以降に昭和建物建設の際、ゴミ穴を掘って

埋め立てし、その上から盛土整地を行って昭和建物を建設し、昭和建物を取り壊す際に、ふたたびゴミ穴を掘って埋め戻し、その上を盛土整地している。

以上のことから、工事予定区域内では明治期以前の生活面は完全に破壊をうけていて遺跡は 存在しないと思われ、周知の遺跡「大館城跡」の範囲内ではあるが、発掘調査の必要はないも のと判断した。 (板橋)





第43図 大館城跡調査トレンチ配置図



-73-

21 大館岩瀬局携帯電話無線基地局建設予定地(遺跡存在可能性地)

- 1. 調查対象所在地 大館市岩瀬字越山向岱90-6
- 2. 確認調査期間 平成19年10月16日(火)~10月18日(木)
- 3. 確認調查対象面積 273.38 ㎡
- 4. 調査地の立地と現況
 - (1) 立 地

大館市の北西部、JR奥羽本線早口駅から北に9.2 km、越山集落西側の十ノ瀬山塊の東麓に 派生した標高 130 mの台地上に位置し、台地の東側の低位面との比高差は15~20 m。

- (2) 現 況 畑 (10年ほど前に杉を植林)
- 5. 確認調査の方法

工事予定地内の主要建物である鉄塔と中継函設置予定地を取り込むように、南北 16 m、東西 1.5 mのNo.1トレンチと南北1m、東西5mのNo.2トレンチの2箇所を設定し、人力により表土以下を削 土した後、地山面まで精査して遺構・遺物の有無を確認した。

確認調査における試掘面積は29㎡で、対象面積の10.6%に相当する。

- 6. 確認調査結果
 - (1)層序

No.1トレンチ南側 5.5 mまで

No.1トレンチ北側残部とNo.2トレンチ

I 層 表土(盛土整地)約15cm

I層 表土(盛土整地)約60cm

Ⅱ層 地山ローム

Ⅱ層 黒色土 約 30 cm

Ⅲ層 漸移層 約15 cm

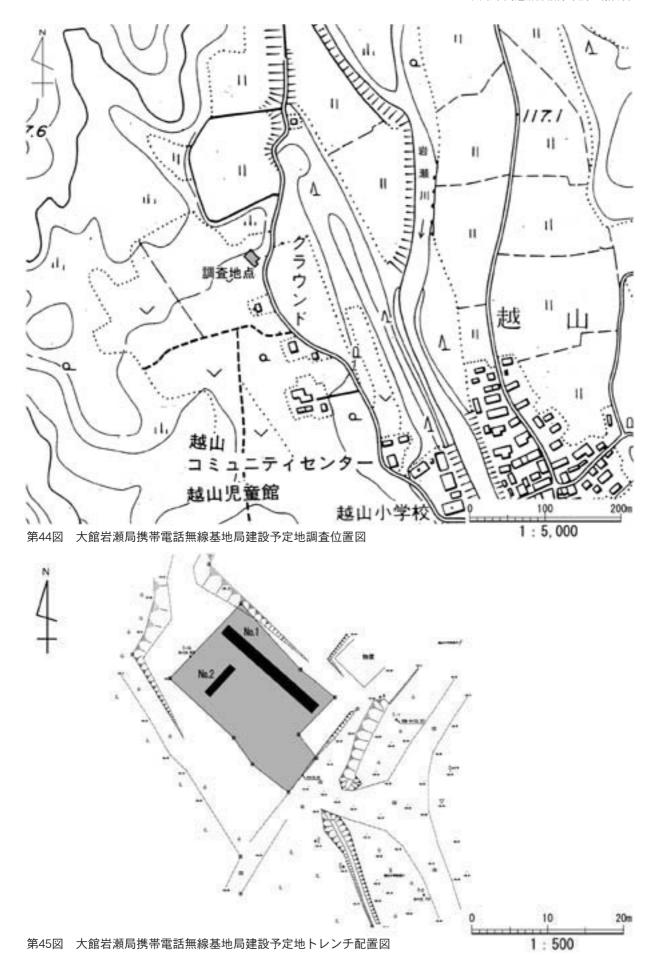
IV層 地山ローム

(2) 検出遺構と出土遺物

遺構の検出、遺物の出土は一切なかった。

7. 所 見

> No.1トレンチ南側に自然堆積層が確認できたものの遺構・遺物は見られない。No.1トレンチ残部お よびNo.2トレンチでは地山面までブルドーザーによる撹乱がみられ、予定区域内に遺跡は存在しない。 よって、発掘調査の必要はないものと判断した。 (板橋)





調査区近景(東から)



No.2トレンチ (北東から)

22 大館中山局携帯電話無線基地局建設予定地(遺跡存在可能性地)

- 1. 調 查 対 象 所 在 地 大館市中山字曲田袋 63
- 2. 確認調査期間 平成19年10月23日(火)~10月25日(木)
- 3. 確認調查対象面積 189 ㎡
- 4. 調査地の立地と現況
 - (1) 立 地

大館市中央部を西流する米代川の北岸、山館集落の東南約600 m、米代川が形成した第4~5段丘上に位置する。標高は約60 m。

- (2) 現 況 水 田
- 5. 確認調査の方法

工事予定地内の主要建物である鉄塔予定地のほぼ中央に、東西7m、南北3mのトレンチを設定し、人力により表土以下を削土した後、遺構・遺物の有無を確認した。確認調査における試掘面積は21㎡で、対象面積の11.1%に相当する。

6. 確 認 調 査 結 果

(1)層序

I 層	耕土	20 cm	Ⅱ層	鉄粉沈殿層	10 cm
Ⅲ層	粘質褐色土	8 cm	IV層	粘質黒褐色土	15 cm
V層	粘質白黄色土	10 cm	VI層	粘質黄色土	10 cm
Ⅵ層	砂質黄色土	32 cm	WI層	砂・礫層	35 cm
IX層	砂層	$25\mathrm{cm}$	X層	粘土層	8 cm
XI層	砂粒混入粘土層	30 cm	XII層	白色粘土層	15 cmまで確認

(2) 検出遺構と出土遺物

遺構の検出、遺物の出土はなかった。

7. 所 見

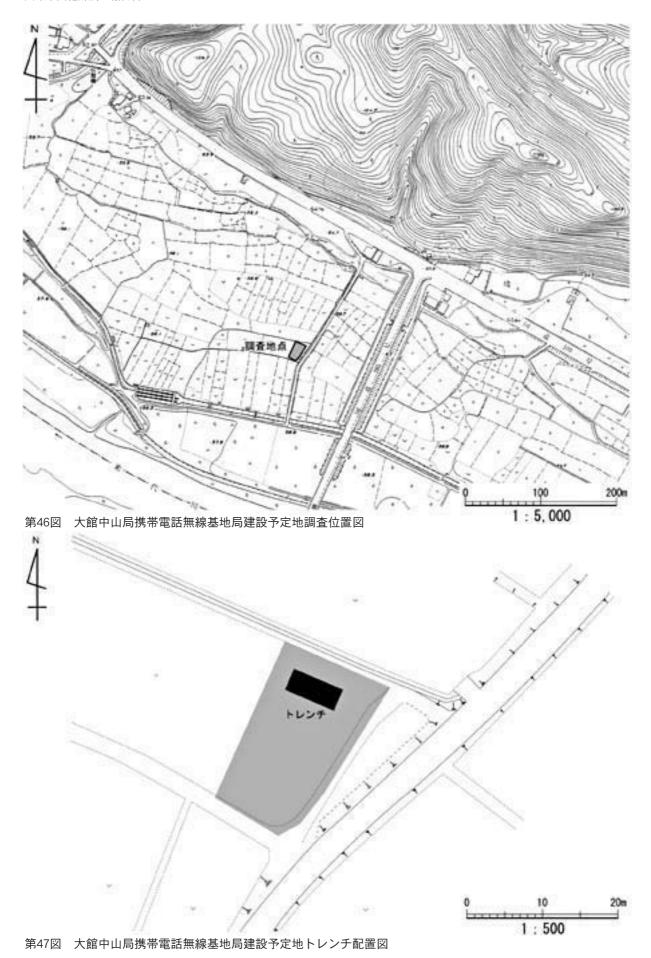
調査区内の土層は自然堆積層で、遺構・遺物が見られなかったことから、工事予定区域内に遺跡は存在しないと思われ、発掘調査の必要はないものと判断した。 (板橋)



調査区近景(北から)



トレンチ(西から)



23 中山間地域総合整備事業 茂屋地区農地防災施設整備予定地(遺跡存在可能性地)

- 1. 調 查 対 象 所 在 地 大館市山瀬字山瀬 987 (1 工区) 大館市山瀬字山瀬 1024 (2 工区)
- 2. 確認調查期間 平成19年11月7日(水)~11月9日(金)
- 3. 確認調查対象面積 5,700 m²
- 4. 調査地の立地と現況
 - (1) 立 地

大館市の北西部、JR奥羽本線早口駅から北北東に約4km、茂屋集落東側の岩瀬川が形成した第2~第3段丘崖面が調査地で、崖上縁の標高が約61~67m、崖下低位面との比高差は4~5m。調査地の南西には、かつて茂屋下岱遺跡が存在していた。(現在は、県道によりほぼ消滅)

- (2) 現 況 崖 地
- 5. 確認調査の方法

第1工区 (延長 460 m)、第2工区 (延長 110 m) の崖面上縁沿いに、ほぼ 25 ~ 30 m間隔で $2 \text{ m} \times 2 \text{ m}$ のトレンチを設定し、人力により表土以下を削土した後、遺構・遺物の有無を確認した。急崖地形や崩壊災害復旧箇所を除いて 1 T 区南端から1 N 1 C 1

6. 確認調查結果

(1)層序

トレンチ全体に、調査地上面における昭和 40 年代の耕地整理時の押し出しによる崖面整備のための盛土施工が見られる。盛土下に旧地表の黒色土が見られる箇所も残存している。最も土層状況の良好なNo.6 とNo.13トレンチの層序を記す。

No.6 トレンチ (1 工区)

I層	表土	$15 \sim 20 \mathrm{cm}$	Ⅱ層	盛土	$50 \sim 60 \mathrm{cm}$
Ⅲ層	暗褐色土	$30 \sim 40 \; \mathrm{cm}$	IV層	黒色土	$30 \sim 40 \ \mathrm{cm}$
V層	軽石粒混入黒色土	$8 \sim 10 \mathrm{cm}$	VI層	シラス層	(地 山)
No.13	レンチ (2工区)				
I層	盛土	30 cm	Ⅱ層	黒色土	$70 \sim 80 \mathrm{cm}$
Ⅲ層	漸移層	$10 \sim 15 \mathrm{cm}$	IV層	白色粘土層	(地 山)

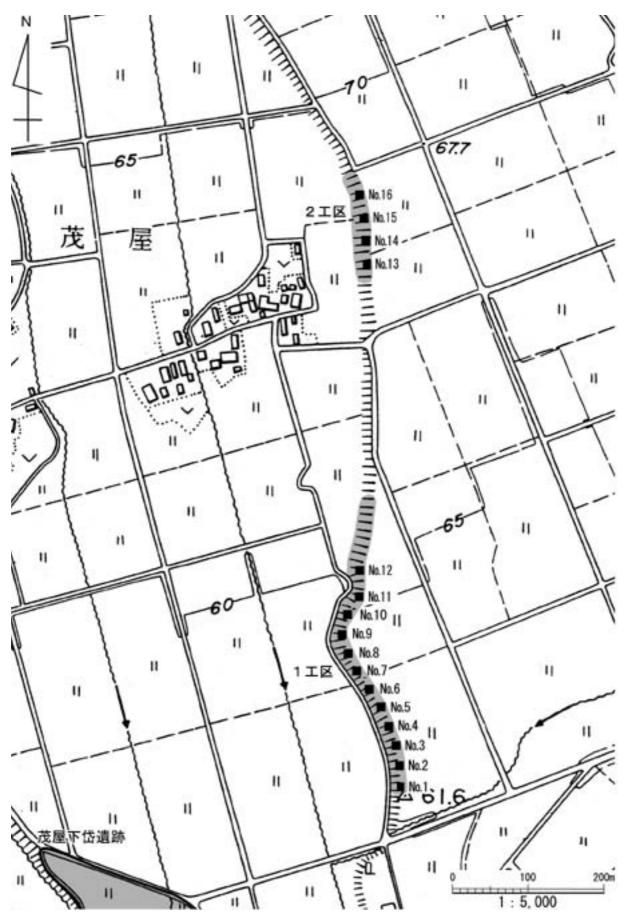
(2) 検出遺構と出土遺物

遺構は検出されなかった。遺物は、No.8トレンチ盛土層から頁岩製の石箆1点が出土した。 また、1工区北側の斜面部および上位の畑地から縄文土器片、剥片を数点表採した。

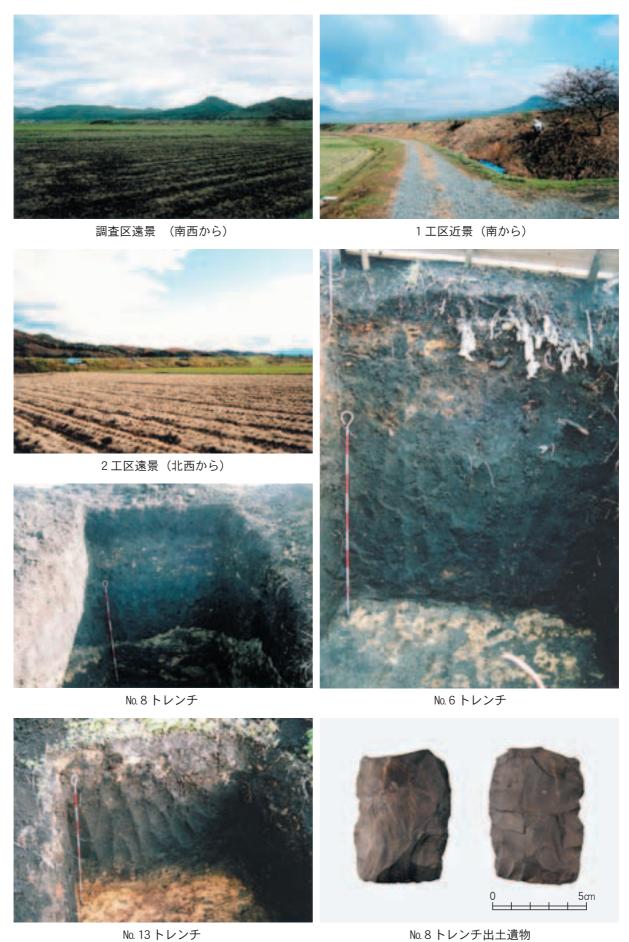
7. 所 見

調査区内では、盛土下に旧地層が残存している箇所も確認できたものの、そこに遺構・遺物 は見られなかった。調査トレンチの多くは地山シラス層までの盛土施工が見られる。このこと から、工事予定区域内に遺跡は存在しないと思われ、発掘調査の必要はないものと判断した。

しかしながら、調査区盛土層からと表採により遺物が確認されたことから、1工区東側には 遺跡が存在している可能性がある。周知の遺跡は確認されていないため、今後、詳細な分布調 査の実施が必要である。 (板橋)



第48図 中山間地域総合整備事業 茂屋地区農地防災施設整備予定地調査位置図



No.8トレンチ出土遺物

24 大館早口局携帯電話無線基地局建設予定地(遺跡存在可能性地)

- 1. 調 查 対 象 所 在 地 大館市早口字大野岱 70 5
- 2. 確 認 調 査 期 間 平成 20 年 1 月 17 日 (木)
- 3. 確認調查対象面積 57.76 m²
- 4. 調査地の立地と現況
 - (1) 立 地

大館市北西部、JR奥羽本線早口駅から北西へ約10km、早口川支流薄市沢左岸の標高約155mの台地上に立地する。調査地の南側約600mには中谷地遺跡が存在する。

- (2) 現 況 荒蕪地
- 5. 確認調査の方法

予定地内に、No.1 ($2.4\,\mathrm{m} \times 1.8\,\mathrm{m}$) とNo.2 ($3.6\,\mathrm{m} \times 1.9\,\mathrm{m}$) のトレンチ $2\,\mathrm{箇所}$ を設定し、表土~基盤層である粘土層上面までを重機で除去した後、遺構・遺物の有無を調査した。 試掘面積は $11.16\,\mathrm{m}$ で、対象面積の 19%に相当する。

- 6. 確認調查結果
 - (1)層序 I層 黒褐色土 (表土) 20~25 cmⅢ層 黄褐色粘土混入黒褐色土 (盛土) 15~20 cmⅢ層 黄褐色粘土 (地山)
 - (2) 検出遺構と出土遺物

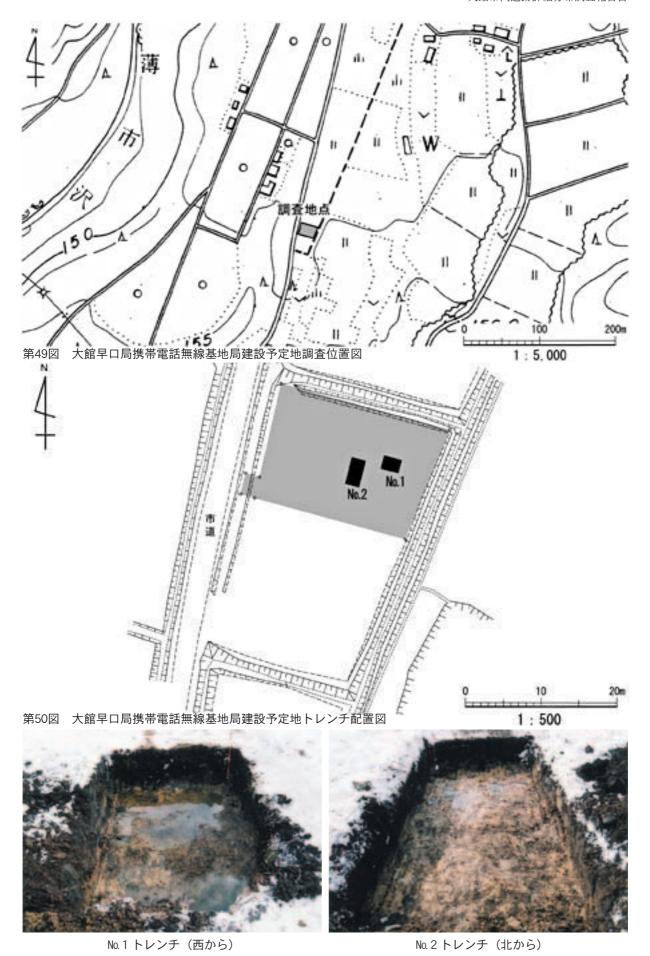
遺構・遺物は確認されなかった。

7. 所 見

調査地内は、土地改良・耕作等による削平が黄褐色粘土層まで達していた。遺構・遺物は確認されず、工事予定区域内には遺跡は存在しないと思われる。したがって、発掘調査の必要はないものと判断した。しかしながら、薄市沢の流域には耕作化されていない地区もあることから、今後も調査が必要であると思われる。 (嶋影)



調査区近景(南西から)



-83-

報告書抄禄

ふりがな	おおだてしないいせきしょうさいぶんぷちょうさほうこくしょ								
書 名	大館市内遺跡詳細分布調査報告書								
副書名巻次									
シリーズ名	大館市文化財調査報告書								
シリーズ番号	第2集 板橋範芳・滝内 亨・嶋影壮憲								
編 著 者 名 編 集 機 関	板橋範芳・滝内 亨・ 秋田県大館市教育委員			71 能					
所 在 地	秋田県大館市教育委員会 大館郷土博物館 〒017-0012 秋田県大館市釈迦内字獅子ヶ森1番地 TEL 0186-48-2119								
発行年月日	西暦2008年(平成20年)3月31日								
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地		- ド 遺跡番号	北緯	東 経	調査期間	調査面積 m ^²	調査原因	
あきひとどめちく 商人留地区	あきひとどめあざたのさわ 商人留字田ノ沢	05204	_	40° 19′ 15″	140° 35′ 54″	$20030702 \\ 20030715$	78	道路建設	
いもがたいいせき 芋ヶ岱遺跡	ゆきさわあざいもがたい 雪沢字蕷ヶ岱	05204	4-58	40° 17′ 00″	140° 40′ 58″	$20031212 \\ 20031213$	24	既設道路待避 所整備	
ゅきさわちく 雪沢地区	ゅきさわあざいしぶちうわたい 雪沢字石渕上岱	05204	_	40° 18′ 34″	140° 41′ 21″	$20031216 \\ 20031217$	19.5	既設道路待避 所整備	
ゃたてはいじあと 矢立廃寺跡	しらさわあざまつばら 白沢字松原	05204	4-4	40° 21′ 40″	140° 35′ 28″	$20040302 \\ 2004\widetilde{03}027$	138	遺跡範囲確認 調査	
しゃかないちく 釈迦内地区	しゃかないあざたて 釈迦内字館	05204	_	40° 17′ 56″	140° 33′ 53″	$20041006 \\ 20041015$	59.5	携带電話無線 基地局建設	
もとみやちく 本宮地区	本宮字下モ野	05204		40° 14′ 32″	140° 30′ 38″	$20041102 \\ 20041110$	48.5	携带電話無線 基地局建設	
おがみいせき 男神遺跡	かすだあざおがみ 粕田字男神	05204	4-155	40° 21′ 34″	140° 34′ 43″	$20041126 \\ 20041217$	198.24	道路建設	
はぎのだいにいせき 萩ノ台Ⅱ遺跡	いけないあざうわの 池内字上野	05204	4-67	40° 15′ 23″	140° 34′ 05″	$20050303 \\ 20050315$	109.5	携带電話無線 基地局建設	
くぞわらちく	くぞわらあざしたのさわ 葛原字下ノ沢	05204		40° 14′ 12″	140° 41′ 22″	$20050316 \\ 20050320$	45	携帯電話無線 基地局建設	
おおだてのいせき 大館野遺跡	白沢字白沢	05204	4-5	40° 20′ 38″	140° 34′ 59″	$20050323 \\ 20050331$	24	携带電話無線 基地局建設	
まつばらちく 松原地区	しらさわあざまつばら 白沢字松原	05204		40° 21′ 49″	140° 35′ 18″	$20050720 \\ 20050723$	30	道路建設	
どびやまだてあと 土飛山館跡	豊町	05204	4-45	40° 16′ 20″	140° 33′ 12″	$20051012 \\ 20051021$	42	宅地造成	
なかしだいちいせき 中仕田 I 遺跡	はやくちあざはちまんたい 早口字八幡岱	05204	15-37	40° 18′ 08″	140° 24′ 51″	$20051102 \\ 20051105$	32	携帯電話無線 基地局建設	
じゅうにしょだいかんじょあと十二所代官所跡	じゅうにしょあざもとだて 十二所字元館 外	05204	4-162	40° 12′ 54″	140° 40′ 18″	$20060314 \\ 20060330$	200	公民館建設	
にいだちく 二井田地区	にいだあざまえだの 二井田字前田野	05204	_	40° 13′ 51″	140° 32′ 54″	20060425	42.25	携帯電話無線 基地局建設	
やぎはしちく 八木橋地区	ひないまちゃぎはしあざはたけさわたい 比内町八木橋字畠沢岱	05204	_	40° 12′ 14″	140° 32′ 04″	20060803 20060811	45	携帯電話無線 基地局建設	
はぎとうげいせき 萩峠遺跡	かるいざわぁざはぎとうげ 軽井沢字萩峠	05204	4-81	40° 13′ 20″	140° 39′ 29″	20060905 20060914	45	携带電話無線 基地局建設	
たっこちく 達子地区	ひないまちたっこあざまえだの 比内町達子字前田野	05204	_	40° 12′ 53″	140° 33′ 50″	20061011 20061013	36	携带電話無線 基地局建設	
おおしげないちく 大茂内地区	大茂内字諏訪下	05204		40° 17′ 39″	140° 35′ 55″	20061101 20061109	39	携带電話無線 基地局建設	
おおだてじょうあと 大館城跡	字上町	05204	4-46	40° 16′ 21″	140° 34′ 01″	20061201 20061216	105	住宅建設	
いわせちく 岩瀬地区	いわせあざこしやまむかいたい 岩瀬字越山向岱	05204	_	40° 21′ 00″	140° 27′ 46″	$20071016 \\ 20071018$	29	携帯電話無線 基地局建設	
なかやまちく 中山地区	なかやまあざまがたふくろ 中山字曲田袋	05204	_	40° 13′ 46″	140° 35′ 26″	$20071023 \\ 20071025$	21	携带電話無線 基地局建設	
^{もやちく} 茂屋地区	山瀬字山瀬	05204	_	40° 18′ 02″	140° 27′ 42″	$20071107 \\ 20071109$	64	農地防災施設整備	
おおのちく 大野地区	はやぐちあざおおのたい早口字大野岱	05204	_	40° 21′ 20″	140° 23′ 23″	20080117	11.6	携带電話無線 基地局建設	

所収遺跡名	種 別	主な時代	主 な 遺 構	主な遺物	特記事項
芋ヶ岱遺跡	遺物包蔵地	縄文	なし	縄文土器	
矢立廃寺跡	寺院跡	縄文・平安・中世	溝跡	縄文土器	
男神遺跡	集落跡	縄文	竪穴住居跡、土坑	縄文土器、石器	
萩ノ台Ⅱ遺跡	集落跡	縄文	土坑、落とし穴遺構	石器	
葛原地区	_	_	なし	縄文土器、土師器 陶磁器	
大館野遺跡	集落跡	縄文・平安・中世	なし	土師器	
松原地区	_	_	なし	縄文土器	
土飛山館跡	集落跡、城館跡	平安・中世	竪穴住居跡、溝跡	土師器、須恵器	
十二所代官所跡	代官所跡	江戸	掘立柱穴、溝跡、竪穴遺構、土坑 焼土遺構	陶磁器、鉄器、銅銭	近世代官所跡 「再来館」を検出

要 約

平成 $15\sim19$ 年度の 5 年間にわたり、24 箇所の開発事業予定地内の試掘・確認調査、県指定 史跡「矢立廃寺跡」周辺の範囲・内容確認調査を実施した。

試掘・確認調査の結果、「男神遺跡」、「十二所代官所跡」を新規遺跡として登録し、「萩ノ台II遺跡」の範囲変更を行った。

本発掘調査が必要と判断した3遺跡のうち、「男神遺跡」、「土飛山館跡」の2遺跡については、 本調査を実施し、「十二所代官所跡」は、引き続き事業担当部署と調整を図っていくこととした。

大館市文化財調査報告書 2

大館市內遺跡詳細分布調査報告書

発行日 平成20年3月31日

編 集 大館郷土博物館

発 行 大館市教育委員会

大館市早口字上野 43 番地 1

印 刷 有限会社 岩澤活版